KING JIM
株式会社キングジム
東京都千代田区東神田二丁目10番18号　〒101-0031

本誌は古紙配合率100%の再生紙と大豆油インクを使用し、印刷しています。
発行：2006年9月

キングジムCSR報告書 2006

未来のために今できること

KING JIM CSR REPORT

キングジムCSR報告書 2006

KING JIM

Contents

トップメッセージ …… 1

価値創造と新市場創造への取組み …… 2

顧客への価値の提供 …… 4
顧客満足／高い信頼性の維持／顧客との継続的コミュニケーション
お問い合わせ対応と顧客情報の保護 …… 6
ユーザー対応／個人情報保護
消費者啓発 …… 8
環境意識の啓発／情報活用の啓発

特集： 点字普及のお役に立つ商品を通じて、ノーマライゼーション意識を啓発しています。 …… 10

環境経営の推進 …… 12
環境憲章の制定／環境問題への取組み／環境推進体制
環境負荷低減のために ～経営としての取組み …… 14
環境会計／従業員教育／省エネルギー・温暖化防止／
環境マネジメントシステム／廃棄物対策・地球温暖化対策／
マテリアルフロー／化学物質管理
環境負荷低減のために ～商品での取組み …… 20
「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3R／
オルタナティブテクノロジー／再生素材

従業員のために …… 24
人材の登用と活用／従業員のエンプロイアビリティ／
人権の配慮／安全衛生／育児・介護支援

社会のために …… 28
地域社会・市民社会／国際社会とのかかわり

経営理念・行動指針 …… 32
マネジメント体制 …… 34
コンプライアンス …… 36
広報・IR …… 37
キングジムグループの事業概況 …… 38
KINGJIM GROUP PRODUCTS …… 40
第三者コメント …… 42
会社データ／編集後記 …… 43

編集方針　お読みいただくにあたって

当レポートは、キングジムグループの事業活動全般にわたって、CSR（Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任）の観点から、ご紹介するものです。
さまざまなステークホルダーの皆様に、キングジムグループをより知っていただき、コミュニケーションを深めていただくためのツールとして作成いたしました。
この度、初めてのCSR報告書を編纂するに当たり、特に以下の点に配慮いたしました。
記述項目は、以下のガイドラインの項目を参考に、網羅性に配慮しつつ厳正に選定し、当社グループの状況を記載しております。

- 「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」（GRI）
- 「社会的責任（CSR）経営自己評価シート」（経済同友会 2005年）
- 「環境報告書ガイドライン 2003年度版」　環境省
- 「環境会計ガイドライン 2005年版」　環境省

当レポートは年次報告書として作成するものであり、記述の対象期間は、2006年度（2005年6月21日～2006年6月20日）の内容を中心としております。ただし、ご理解を深めていただく必要に応じて、この期間の前後の内容についても記述しております。
また、キングジムグループ全体に関する内容を主としておりますが、株式会社キングジムに限定した記述に関しては、「キングジム」と明示し、「キングジムグループ」と区別しております。

当レポートの内容は、キングジムのホームページでも公開いたします。

Web Address　http://www.kingjim.co.jp

また、内容についてのご質問、ご指摘、またご感想などは、ぜひ、メールでお寄せください。

Mail Address　webmaster@kingjim.co.jp

電話・FAXでのお問い合わせは、下記へお願いいたします。
株式会社キングジム　広報室

TEL　03-3864-7073
FAX　03-3864-9258

[トップメッセージ]

TopMessage

「社会的責任」を見据えた経営を――。

株式会社キングジム　代表取締役社長

宮本　彰

「キングジムCSR報告書2006」の発行に当たり、ご挨拶申し上げます。

株式会社キングジムを中核とする「キングジムグループ」は、「テプラ」や「キングファイル」等、皆様の情報活用を推進するさまざまな商品を世に送り出しております。

「独創的な商品を開発し、新たな文化の創造をもって社会に貢献する」という経営理念のもと、新たな商品価値をご提供することによって企業価値を高めていくことが、私たち「キングジムグループ」の存在意義であり社会的使命であると考えております。

私どもは、環境意識の高いオフィスのユーザーにお使いいただいている事務用品のメーカーとして、いち早く環境問題の重要性を自覚し、製品の環境適合設計を推進してまいりました。また、1999年には当社の主力工場であるつくば工場で環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証を取得し、製造過程での環境保全活動にも積極的に取り組んでまいりました。このような環境への取り組みは、「持続的発展可能な社会をつくる」という、社会的責任の一環であります。

株式会社キングジムは、1987年に東京店頭市場（現JASDAQ）に株式を登録。2001年には、東京証券取引所市場第二部に上場し、2005年には市場第一部に指定されました。

当社は株式の店頭公開以前から「企業は社会の公器である」との認識で活動してまいりましたが、当社の発展と規模拡大は、そのまま社会的責任の増大と比例するものと考えます。キングジムの事業活動は、直接・間接を問わず、様々な形で社会に影響を与えています。社会の中における企業としての責任を強く自覚し、「高い倫理」と「法令遵守」を掲げて、これからも健全な経営を維持してまいりたいと思います。

そのためには、事業活動そのものを今一度CSRの観点から客観的に見直し、ステークホルダーの皆様にご報告する必要があると考えます。この報告書で、私たちは、事業活動の広い領域を、客観的な視点で捉え直すよう努めました。客観性のある自己認識が、私たちのCSR推進の第一歩であると考えるからです。

その意味で当レポートは、これを発行することで完結するものではなく、これからの皆様とのコミュニケーションの第一歩であると思います。皆様の忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

キングジムグループはCSR推進により、社会の中での健全な成長を追求し、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

Q ▸ 商品開発において念頭においていることは何で　すか？

※1 宮本英太郎
1893-1975　キングジム創業者。和歌山県出身。東京で「人名簿」「印鑑簿」の発明家として活動を開始し、1927年に株式会社キングジムの前身である「名鑑堂」を創業。数多くの独創的なファイル・バインダーの開発、製品化に尽力した。1958年黄綬褒章、1965年勲六等旭日単光章。

※2 人名簿
宮本英太郎の発明した「切り抜き式人名簿」は、ハガキの差出人部分を切り抜いて保存するファイル。名刺の普及する以前の時代に、このファイルによって住所、氏名、電話番号を管理するというアイデアだった。

※3 キングファイル

「パイプ式ファイル」の代名詞的存在の「キングファイル」。

※4 テプラ

1988年に発売された「テプラ」。初期のモデルはダイアル入力式の独特なデザインだった。

※5 ノーマライゼーション
障がい者も健常者と同様の社会生活を営む権利があるとする考え方。

A 新市場の創造が顧客と社会への貢献だと考えます。

「人と同じ事をしていては楽しみが無い」というのが、創業者である宮本英太郎※1の口癖でした。人名簿※2・印鑑簿等の画期的なアイデアから起業したキングジムは、これまでに世の中になかった商品を開発し、「新しい市場を作る」ことが、顧客と社会への最大の貢献であると考えています。

パイプ式ファイルの代名詞となっている「キングファイル」※3は、1964年の発売以来、見やすい背見出しや斬新なデザインで、日本のオフィスのファイリングスタイルを確立してきました。また、1988年に発売された「テプラ」※4も、漢字混じりの日本語ラベルを作るコンパクトな「ラベルライター」というジャンルを作り、ラベル作成機の代名詞となっています。

これらの製品は、情報整理の分野で、新しい便利な用途・習慣を広く社会に定着させることに成功しました。このような「価値創造」によって、顧客と社会に貢献することこそメーカーの使命であると、私たちは考えています。

A 環境保全やノーマライゼーションなど、社会意識の高い開発を行います。

商品開発にあたっては環境負荷を少しでも低減するために、製品のライフサイクル3R[Reduce（廃棄物などの発生の抑制）・Reuse（再使用）・Recycle（再資源活用・再資源化）]に加え、Alternative Technology（代替技術、素材）の視点に立つことを常に意識しています。そのために、開発の企画段階から環境配慮に関するチェック項目を設けるなど、環境配慮を念頭においた機能設計・材料選定を行っています。また、EU各国でRoHS指令が施行されるなど鉛や六価クロムなどの有害物質の使用が制限されるようになりましたが、このような中で「テプラ」に鉛フリーはんだを導入したり、クロムフリーの「キングファイル エコロジードッチ」を世に送り出しています。

環境保全だけではなく、それ以外の社会的課題を意識した商品開発も行っています。

情報セキュリティ強化の必要性が強まってきたことに対しては、表紙をロックすることで第三者の閲覧による情報漏洩の防止に効果的な「キングファイル　セキュリティドッチ」や、中身が見えなくなるように表紙を不透明にした「カラーホルダー」といった商品を開発しています。

1950年代からノーマライゼーション※5という考え方が提唱されてきましたが、その考え方を社会の中に定着させるには今日でも環境が十分整っているとはいえず、大きな社会的課題といえるでしょう。2005年5月発売の「点字テプラ」は、機能面・コスト面で点字ラベルの作成を容易にし、点字の普及とノーマライゼーション社会への貢献を意図して開発した商品です。

A 常に一歩先への精神と、使用者の負の解消を目指して、新しい価値創造を目指します。

キングジムでは、今お使いいただいているお客様はもちろんのこと、将来お客様になる方々や環境の変化を見据えた商品開発を行っています。時代にあわせて製品を進化させると共に、現在の使用状況の一歩先を見つめ、お客様に新しいご提案をしていくことが重要です。

現在の商品の「負の要素」を洗い出し、情報整理用品がどのように進化していくべきかを追求する――そこから発想した商品をご提案することで、お客様とともに新しい情報整理用品の形を作り出したいと考えています。

■ フラットファイル「クイックイン」

フラットファイルは安価で数多く使用されている薄型のファイルですが、ユーザーから次のようなご指摘がありました。「フラットファイルは、とじ足が寝てしまうため、書類の抜き差しが面倒である。2本のとじ足をそれぞれ1本づつ手で起こし、書類の穴に通さなければならない」　確かに改めて観察してみると、使いづらいことがわかりました。

そこで、現在のフラットファイルの負を洗い出し、それを解決できる機構を考えました。課題は「書類の抜き差しをしやすくすること」です。「とじ足が直立する」「押さえ板の穴にとじ足を通さない」「最後の固定はワンタッチ操作」などの解決案を考え、試行錯誤の末、スプリング製のバネを採用することで「とじ足」を直立させ、スライド操作で開閉できるとじ具を開発。こうしてフラットファイル「クイックイン」が誕生しました。

フラットファイル「クイックイン」

■ とじ具のない薄型ファイル「TEZIG=手ジグ」

文字通り「手がとじ具になる」全く新しいファイルのカタチです。

「ケースファイルは書類を簡単に投げ込めて持ち運びができるので使いやすいのだが、中の書類を探すときは一度すべてを出さなければならないし、出すと書類がばらばらになるので困る」という負を解消し、ケースタイプでありながらとじ具付きのファイルのように中の書類の閲覧ができ、かつ簡単に取り出すことができるようにしました。

書類にとじ具の跡が残るといった心配もありません。書き込み・コピー・提出などで出し入れする機会の多い書類や、穴をあけたくない書類の整理・持ち運びに最適です。また、ハードケースタイプなので、変形しにくく棚などにきれいに並べやすくしました。手で操作部を押さえると書類がホールドされ閲覧が可能になり、手を離すとフリーになって書類の取出しができる簡単構造です。

薄型ファイル「TEZIG=手ジグ」

■ いざという時 “増やせる固定式” クリアーファイル「ヒクタス±」

ポケットの固定されている「クリアーファイル」は、背幅もスリムで使い心地が良いため、多くのお客様からご好評をいただいている商品です。「しかしこの商品に不満なところは全くないのだろうか?」という疑問が、開発のスタートでした。

そこで発見した不満点は、「少しだけポケットを増やしたい」と思ってもできないということでした。すでにポケットを追加できるクリアーファイルは存在していましたが、バインダータイプのため固定式に比べると背幅が厚く使用感の異なるものでした。そこで、使い心地やスリムな背幅はそのままで、「ポケットを自由に増やすことのできる」クリアーファイルを創りだそうと考えました。

たび重なる試行錯誤の末、新しい機構のスティック式とじ具を使えばこの課題を解決できることがわかりました。このように一歩先を考えた結果、ポケット数を自由に「引く《ヒク》」「足す《タス》」できるクリアーファイルが誕生しました。

クリアーファイル「ヒクタス±」

Q ▶ 顧客の信頼に、どう応えていますか？

お客様相談室では、全国のお客様からのお問い合わせやご意見をお聞きしています。

●顧客満足（CS）

A お客様の声を大切にしています。

「顧客満足の向上」は当社にとって、最も重要な経営課題のひとつです。多くのお客様に支えられて高い評価をいただいている“キングジム”ブランドを、時代を超えた高品質の代名詞として、さらに成長させたい―そのために、私たちは常にお客様の声に耳を傾けています。

顧客満足の向上のためには、優れた商品と高い品質に加え、お客様とのコミュニケーションが不可欠です。特に、継続的にご使用いただくことの多いオフィス用品では、お客様の不満点の解決がそのまま商品の改善につながるケースもあります。

キングジムでは、全国のお客様相談室および修理センターを統括する「CS部」を設置。個別にご質問、ご相談にお応えすると同時に、お客様のお問い合わせ内容を分析し、商品やサービスに素早く反映させる体制を整えています。また、さまざまな継続的なコミュニケーションを通じて、顧客満足の増進に努めています。

●高い信頼性の維持

A お客様から寄せられる品質への信頼が私たちの誇りです。

商品の品質について、より厳正な管理を行うために、1998年7月につくば工場および電子事業開発本部で、「パイプ式ファイルの設計／開発および製造」と「ラベルライター、テープおよびアクセサリーの設計・開発」に対して「ISO9001※1」の認証を取得しました。安全・品質にかかわる要求基準を明確にした製品仕様書・各部材、製品の品質基準を設定した品質基準書を策定し、国際規格に適合する品質保証体制を構築しています。

つくば工場

私たちは、お客様の信頼にお応えする品質とは、商品のみの品質ではなく、適正な価格設定やタイムリーな物流も含む総合的なものであると考えます。物流面では、高品質な商品を速やかにかつ安定的に供給するため、国内外の生産・販売拠点を高次元な情報ネットワークで結び、戦略的なシステムを構築しています。

また、安全性については、ISO9001の手順にのっとり製品ごとに安全性の検証を実施しています。怪我や物的損害の防止はもちろんのこと、誤使用や誤操作を防止するため、取扱説明書の注意事項について関連部門が協議し、お客様がより安全にご使用いただける安全性向上への「適切な表示」の徹底を図っています。

※1 ISO9001
ISO9001　認証取得
JQA−2508つくば工場
パイプ式ファイルの設計／開発および製造
JQA−2501電子文具事業開発本部
ラベルライター、テープおよびアクセサリーの設計・開発

●顧客との継続的コミュニケーション

A お客様との長いお付き合いが財産です。

顧客満足の向上には、既に商品をお買い上げいただいたお客様と継続的なコミュニケーションを行うことが欠かせません。CS部の統括する「お客様相談室」では、電話やメールでの個別のお問い合わせに迅速に対応しています。

また、キングジムのホームページ（www.kingjim.co.jp）および「テプラ」ユーザーのファンサイト（www.tepra-club.com）などウェブサイトによるユーザーとのコミュニケーションを強化しています。「ファイル」ユーザーを組織した《FB会員※2》および「テプラ」ユーザーを組織した《「テプラ」貼ってよかったクラブ※3》を運営しています。また、定期的なメールマガジン『KJ-TIMES』などを配信し、最新の情報をご覧いただくよう努めています。

「ファイリング研究室※5」では、ファイリングに関するご相談をお受けし、ファイリングセミナーなどを実施することで、組織でのファイル活用の啓発を積極的に行っています。また、CS部では、「テプラ」ユーザーに対するサービスとして「使い方講習会」を無料で開催しています。

営業活動の中でのユーザーコミュニケーションとしては、お客様のご要望を反映した「特注品」の製作を承っており、ここでのお客様のご要望が、商品開発への刺激ともなっています。また、ISOT※6・ビジネスショウなどの展示会において、商品をご案内するとともに、直接ユーザーの声に耳を傾けることに努めています。

東京本社での「テプラ」ユーザー講習会

CS部修理センターの従業員研修会

※2 FB会員
ファイル、バインダーを多く採用いただいている企業や組織の方々を対象に情報提供等を行う会員組織です。

※3「テプラ」貼ってよかったクラブ
『「テプラ」貼ってよかったクラブ』では、ユーザーに投稿いただくなどの方法で、様々なラベル表示の活用事例をご案内しています。

※4 メールマガジン
ユーザーの皆様に新製品や便利な商品活用情報などをお伝えするメールマガジン『KJ-TIMES』を配信しています。「テプラ」はもちろん、「キングファイル」をはじめとするファイル関連用品などの情報を満載しており、弊社ホームページから登録できます。

※5 ファイリング研究室
ファイリング研究室は当社のファイル用品を使った効率的な文書管理を支援するため、「ファイリングコンサルティング」「セミナー」などを有料で実施している営業本部営業推進部の一部門です。

※6 ISOT
《ISOT2006》に出展。来場者の投票で選ばれる「ステイショナリー・オブ・ザ・イヤー2006」に、キングジムの「取扱説明書ファイル」が選定されました。3年連続の受賞です。

Q お客様からのお問い合わせにはどのように対応し　ていますか？

●ユーザー対応

A お客様相談室で年間約8万3千件もの声にお応えしています。

キングジムではお客様の声をお聞きする重要な窓口（接点）として、東京・名古屋・大阪・福岡の全国4カ所にお客様相談室を設置しています。2006年度には約8万3千件のお問い合わせをいただいております。お客様相談室では日々、フリーダイヤル・メールを中心としたお客様からのお問い合わせ・ご提案・ご要望にお応えしています。お客様相談室に寄せられた貴重なご意見は、社内の各部門にフィードバックし、企画・開発・設計・製造・販売・サービスなど、すべての事業活動において、顧客満足の向上に向けた取組みの源泉となっています。

CS部　東京お客様相談室のメンバー。
大阪・名古屋・福岡にもお客様相談室を設置している。

お客様相談室

●フリーダイヤル（全国共通）お客様相談室
ナットクのパートナー
0120-79-8107
受付時間:平日（月曜日～金曜日）午前9:00～午後5:30

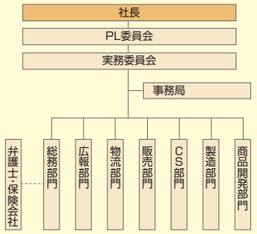
携帯電話・PHSをご利用の場合は、以下をご利用ください。
東　京 03-3864-1234　　大　阪 06-6263-1654
名古屋 052-935-4038　　福　岡 092-413-3977

●ホームページアドレス ≫ http://www.kingjim.co.jp/

テプラ「縦・横」ボタン

ヘッドクリーニングテープ

●PL対策社内組織（PL委員会）



お客様の声からの具体的改善例

（1）テプラ「縦・横」ボタン

「操作が分りにくい」というお問い合わせの多かったテプラの「縦・横」設定について、「縦・横」ボタンを独立させることで分かりやすい操作方法に改善を行ないました。

（2）テプラPRO「ヘッドクリーニングテープ」の商品化

テプラの印字ヘッドが汚れることにより印字カスレが発生しますが、クリーニング方法が分からないとのお問い合わせを多くいただいていました。そこで、テープ送り操作だけで簡単にヘッドクリーニングが可能な「ヘッドクリーニングテープ」を商品化しました。

事故・トラブル対応

万一、購入いただいた商品に不具合が発見された場合は、迅速かつ透明性のある対応を行い、お客様満足の向上に常に努めています。また、PL委員会を中心とした商品安全体制により、商品の安全性の確認に万全を期しています。

●個人情報保護

A お客様のプライバシーは、完全に守ります。

個人情報保護の強化

キングジムは、2005年4月に完全施行された個人情報保護法に対応し、同年4月に「個人情報管理規定」を制定し、運用を開始しました。この規定を各部門が適切に運用するために、内部監査を実施しており、個人情報の保護に万全を期しています。

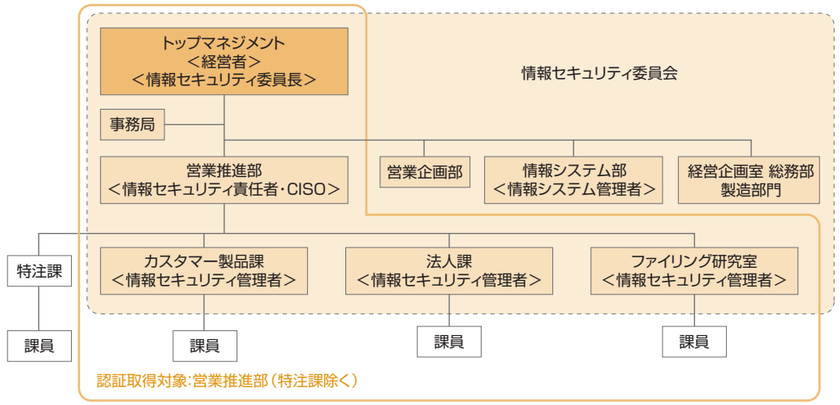
情報セキュリティマネジメント規格（ISMS／BS7799）の認証取得

お客様からお預かりする情報を適切に管理するため、2005年9月に営業部門では、情報セキュリティの国内規格である「ISMS」と国際的な規格である「BS7799」のダブル認証取得をしました。

情報セキュリティマネジメントの運用体制は、ISMS経営者である営業本部長をトップマネジメントとし、CISO※1、情報セキュリティ委員会、同事務局、対象部門メンバーによって構成されています。

国内規格であるISMSから、国際規格ISO27001への移行手続きを行っています。

●ISMS審査登録対象組織 体制図　2006年6月20日現在



拡がる情報セキュリティ委員会の活動

適切な情報セキュリティマネジメントシステムを構築し、維持・運営するために全社の各部門から委員を選出した情報セキュリティ委員会を設置しています。その役割は（1）情報資産の価値評価（2）情報資産のリスク分析・評価（3）リスク対策の決定を行っています。

個人情報や、営業秘密情報を適切に管理できるよう情報セキュリティをさらに強化するため、情報セキュリティ委員会の活動範囲を拡大していきます。前述のISMS認証取得で得られた知識や情報、ノウハウを認証取得部門以外の他部門でも活用できるようにしていきます。

●情報セキュリティマネジメント規格の認証マーク

ISMSJQA-IM0268　　BS7799JQA-IS0084

※1 CISO
チーフインフォメーションセキュリティオフィサー。

認証取得範囲

●組織
株式会社キングジム　営業本部
営業推進部（特注課を除く）

●所在地
東京都千代田区東神田2-6-9
アルテビル東神田Ⅱ 3階

●登録範囲
①ファイリングコンサルティングサービスの提供および関連する商品の販売・関連業務（ファイリングソフトウェア開発、教育資料作成）の実施
②顧客（社内含む）に対する商材の企画・提案・販売と生産関連業務（仕入・受発注・在庫管理）の実施

●登録日
2005年9月9日

●審査登録機関
JQA（財団法人　日本品質保証機構）

●認証取得番号・認定機関
・ISMS:JIPDEC
（財団法人　日本情報処理開発協会）
・BS7799:UKAS（イギリス認定機関）

Q ▸ 社会への啓発活動を行っていますか？

環境配慮商品カタログ

※1 エコマーク
キングジムの商品は2006年6月現在511品番が認定されています。

※2 環境マーク
キングジム商品の・素材情報・使用時の情報・廃棄時の情報などについて、お客様自身が判断できるようにカタログに掲載したマーク。

●環境意識の啓発

A 商品を通じてユーザーの環境意識を啓発しています。

キングジムの商品は、開発・設計段階から、環境に配慮することを前提としています。これらの「環境配慮商品」の正確な情報をユーザーにお伝えすることによって、消費者の環境意識の高まりにお応えしています。このような、環境配慮仕様の商品をお選びいただくための情報サービスは、そのまま環境意識の啓発活動となっています。具体的な環境啓発活動は以下の通りです。

①ホームページ（www.kingjim.co.jp）および年1回発行の「キングジム総合カタログ」に環境配慮情報を常時掲載しています。
②「環境配慮商品カタログ」を、1996年以降発行。第12号を発行済みです。（2006年7月現在）
③環境をテーマとした展示会「エコプロダクツ」に1999年の第1回より出展しています。
④商品やカタログ、ホームページなどに、消費者が環境配慮商品を選択しやすいように、「環境ラベル」を表示しています。

A キングジム独自の基準を設け、「環境マーク」を使って分かりやすく表示しています。

消費者が環境配慮商品を選ぶ際に、その選択の目安となるのが「環境ラベル」です。「環境ラベル」には、財団法人日本環境協会の認定する「エコマーク※1」など公的マークのほかに、メーカーなどが自社商品の環境配慮仕様を明示する「環境ラベルタイプⅡ」があります。キングジムでは、このタイプⅡの環境ラベルを独自の「環境マーク※2」として、製造・使用・廃棄の各ステップ別に制定し、カタログなどに活用。環境意識の啓発に役立てています。

キングジム「環境マーク」表示商品 1,131品番 〈2006年6月現在〉

※「環境マーク」はキングジムの登録商標です。

製造ステップ

商品の主要な部材に「再生紙」、「再生PP」や「再生PE」などを利用することによって、省資源化をすすめます。商品の企画・設計から環境配慮を重要テーマと位置づけています。

- ECOLOGY 再生紙：限りある森林資源の有効活用を考えて、再生紙を使用しています。
- ECOLOGY 再生PE：表紙や部品に再生PEを使用しています。再生PEのみを使った商品と、PEガス管＋再生PPの混合材を使用した商品があります。
- ECOLOGY 非木材紙：森林保護・育成の観点から、非木材資源である「バガス」を活用した商品です。
- ECOLOGY 再生PP：表紙やポケットに再生PPを使用しています。
- ECOLOGY 再生PS：プラスチック成型品の原料に、再生ポリスチレン（スチロール樹脂）を使用しています。
- ECOLOGY バイオマス資源：表紙にバイオマス由来プラスチックを使用しています。化石資源の保護や地球温暖化の防止を推進します。

使用ステップ

古くなった商品も使用可能な部分を「再使用（リユース）」できる設計や、部材を交換することでいつまでも「長期使用（ロングライフ）」できる商品を開発しています。使用段階でのユーザーの「環境配慮」にお応えします。

- ECOLOGY リユース：「捨てる」ことから「再使用」していくことが、ゴミの削減につながります。表紙やとじ具部材の再使用が可能です。
- ECOLOGY ロングライフ：限りある資源を大切にするために、耐久性のある表紙や背見出し紙の交換などで長期使用が可能になります。

廃棄ステップ

商品を廃棄するときのことまで考慮に入れ、可燃・資源ゴミに簡単に分別できる「分別廃棄」仕様や焼却しても塩化水素ガスが発生しない「オレフィン素材」の使用を積極的にすすめています。

- ECOLOGY 分別廃棄：表紙ととじ具を簡単に取り外すことができる構造になっているので、廃棄するときに素材ごとのゴミ分別ができます。
- ECOLOGY オレフィン素材：表紙にオレフィン系の素材を採用。「オレフィン」は炭素と水素の化合物のため、廃棄後に焼却しても塩化水素ガスが発生しません。
- ECOLOGY 回収・再資源化：使用済み商品を回収して、資源の再使用やゴミの減量化を行います。
- ECOLOGY 回収・リユース
- ECOLOGY 鉛フリーはんだ：実装部品に使用するはんだについて、鉛を含まない材料に切り替えています。

●情報活用の啓発

A オープンファイリングシステムを通じてファイリングによる情報活用を広めています。

キングジムは、パイプ式ファイルの代名詞となっている「キングファイル」の普及とともに、日本のオフィスに「オープンファイリングシステム」をご提案してきました。

「オープンファイリングシステム」とは、オフィスの文書をスタッフが共有するファイリングのことで、書類の管理と検索を合理的に行うことができます。また、担当者不在の場合でも、目的の書類をほかのスタッフが活用できる「オープン」なシステムであるため、業務効率の向上につながり、多くの企業・官公庁で採用されています。

書類の発生から活用・保存・廃棄に至る過程で、有効なファイリングを行うことで、オフィス空間の有効活用にもつながり、情報セキュリティに関しても、このファイリングシステムが基礎となります。

「個人情報保護法」、「新会社法」、「金融商品取引法（日本版SOX法）」など次々と新しい法令が施行（または施行予定）されており、オフィスにおけるファイリングの重要性は一層高まっています。

この状況を踏まえ、キングジムでは、「ファイリング研究室※3」が中心となって情報を適切かつ快適に活用するための「ファイリング」についての理解を促進する活動を展開しています。

「ファイリング研究室」では、ファイリングについての企業・官公庁などからのご相談に常時対応しています。ファイリングの初心者から、ファイリングシステムを構築するリーダーまでを対象とした「ファイリングセミナー」や、ファイリングシステムの構築をさまざまなかたちで支援するコンサルティングまで、一部無料のものも含め、幅広いコースを設定してファイリングのノウハウをお伝えしています。

また、「キングジム総合カタログ」およびホームページ（www.kingjim.co.jp/filing/）にて、継続的にファイリングについて解説するとともに、「ビジネスショウ」「オフィスセキュリティEXPO」などの展示会において、文書管理の啓発活動を行っています。

「ファイリング研究室」では、ファイリングの啓発によるビジネスの効率化のためのセミナーやコンサルティングを実施している。

コンサルティング風景

※3 ファイリング研究室
ファイリングに関するご相談を下記にて承ります。
tel.03-3864-1560
fax.03-5822-7129
http://www.kingjim.co.jp/filing/

オープンファイリングの実施事例。

消費者啓発

点字普及のお役に立つ商品を通じて、ノーマライゼーション意識を啓発しています。

ラベルライター「テプラ」から点字ラベルも作成できるタイプが登場しました。
「テプラ」ならではの技術と配慮が行き届いた快適な点字対応ラベルライターです。

「テプラ」PRO SR6700Dの特長

- 自動点訳機能搭載で、簡単に点字ラベルが作成可能
- 一枚のラベルで、点字と印字の両方を表示できる
- 「上下マーク」で、ラベルの上下貼り間違いを防止
- 今まで通りの「テプラ」としても活用できる

障害者基本法の改正や、ハートビル法・交通バリアフリー法の制定などにも見られるように、障がいを持つ方でも、できるだけ健常者と同じように生活を営めるようにしようという「ノーマライゼーション」と呼ばれる理念が、近年注目されています。そして、この考え方に基づいた施策のうち、目の不自由な方への配慮としては、点字ブロックや音の出る信号機の設置、点字表示の拡充などが進められています。しかしながら、こうした対応がなされているのは主に公共施設が中心であり、特に点字表示に関しては、まだまだ不十分な状態です。

点字表示が広がりにくい理由は、いくつか挙げることができます。まず、点字には独特のルールがあり、専門の知識が無い人では、簡単につくることができません。そのため、専門の業者に作成を依頼しなければならず、コストや時間がかかるため、気軽に作るというわけにはいきません。また、専門知識がある場合でも、点字ラベルを作成する専用の機械は高価なので、一般の企業や商店などでは導入しにくいものでした。

点字「テプラ」はこのような現状を改善し、一般企業でも手軽に点字ラベルを作成することができるようになることを目的として開発しました。

その最大の特長は「自動点訳機能」によって点字の知識がない方でも、ワープロ入力の感覚で、簡単に点字ラベルを作成することができるという点です。基本操作は従来の「テプラ」とほぼ同じなので、どなたでも抵抗感なく、点字ラベルの作成が可能となります。

また、印刷文字と点字の両方を、一枚のラベルで表示することができるため、点字を知らない方が貼る場所を間違えたり、上下を逆さまに貼ってしまうミスを防ぐことができます。それだけでなく、点字ラベルに印刷文字を同時に表示すれば、健常者も点字表示の存在に注目します。そのことが、視覚障がい者をサポートする意識を高める結果になることが期待されます。

従来の点字ラベル制作機が、最も安いものでも10万円程度であったのに比べ、点字「テプラ」はメーカー希望小売価格¥45,150（税込）と、お求めやすい価格設定に抑えています。これにより、公共施設はもちろん、これまであまり点字表示をすることができなかった一般の企業や店舗などでも、比較的容易に導入することができます。当社では、この商品を通じ、真のノーマライゼーション社会到来を支援していきたいと考えています。

当社では、この点字「テプラ」によって、これまであまり点字表示を導入していなかった一般の企業や店舗などでも、積極的に点字表示を導入していただき、共にノーマライゼーション社会の育成に協力していただきたいと考え、さまざまな啓発活動を実施しています。

そのひとつとして、点字「テプラ」をご活用されることにより、新たに点字表示サービスを実施された様々な業種のユーザー様にご登場いただき、点字表示の必要性を訴える啓発広告を、日本経済新聞を中心に、シリーズで実施いたしました。

また、2005年12月には東京駅八重洲コンコースにて開催されたチャリティに、当社も出展し、広く点字「テプラ」のご説明を行い、消費者への啓発を行いました。

点字「テプラ」の活用事例を新聞広告で広くPRしました。

タリーズコーヒー 亀田メディカルセンター店様
●メニュー表での点字表示

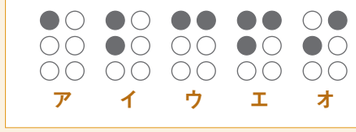
ファーマライズ薬局三方原店様
●薬袋への点字表示

東急百貨店 渋谷・本店様
●百貨店でのお買い上げ商品への点字表示

Column 上下逆さまの点字

点字は上下を逆さまにすると、全く違う「音」になってしまう場合があります。点字を貼る人が、必ずしも点字の知識があるとは限りませんので、せっかくの表示が上下逆さまに貼られることにより、意味が通じない文章になってしまうケースも多々見られます。視覚障害者へのアンケート調査では、43%の方が上下逆さまの点字表示にとまどった経験があると回答しています。（日本盲人社会福祉施設協議会「点字表示などに関するガイドライン」より）
点字「テプラ」では、点字と印刷文字を一枚のラベルに表示できる機能に加え、点字のみのラベルを作った場合でも、「上下マーク」によって、ラベルの上下貼り間違いを防ぐことができます。

点字は、6つの点で構成され、読みの「音」を表しています。



環境憲章の制定

※1 キングジム環境憲章
キングジム環境憲章は、1998年1月に制定されました。

社内全部門に環境憲章を掲示し、意識付けを行っている。

私たちのかけがえのない地球の環境を守るために。ファイルメーカーとして商品を供給する立場からキングジムは、「環境憲章※1」を制定し、社会の一員として責任ある取組みを行っています。

環境憲章

次世代のために、私たちは取り組みます。

For the next generation

環境理念

キングジムグループは商品を供給する立場から、
資源の有効活用を積極的に行い、
地球にやさしい商品の開発・生産につとめます。
キングジムグループは社会の責任ある一員として、自然との共生をめざし、
地球環境の保全につとめます。

行動指針

キングジムグループは自然との調和を経営の重要課題としてとらえ、
企業活動の全域で環境へのやさしさを優先して行動します。

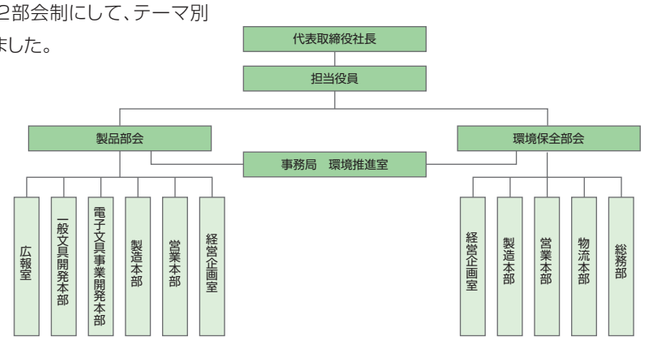
- 開発・設計の段階から環境・安全性を考慮し、環境保全に適合した省資源・環境配慮製品の提供につとめる。
- 生産・販売・物流・廃棄などの各段階で、環境保全に貢献できる資材やシステムを積極的に取り入れる。
- 環境に関する法規制を遵守するとともに、自主管理規制を設定し環境管理の向上につとめる。
- 社内の環境教育を行い意識の向上をはかるとともに、環境保全活動を通して社会に貢献する。
- 環境管理の組織、運営制度を整備し、環境改善施策を実行し自主管理の維持向上につとめる。
- 環境に関する方針を必要に応じて開示し、環境保全につとめる。

環境問題への取組み

1991年	6月	〈エコロジープロジェクト〉発足
	8月	「保存ファイル」が、パイプ式ファイルとして初めてエコマーク認定商品となる
1992年	11月	日本野鳥の会へ協賛支援を実施
1993年	7月	WWFジャパン［(財)世界自然保護基金ジャパン］の法人会員となる
1996年	6月	グリーン購入ネットワーク(GPN)に参加、会員となる
	9月	分別廃棄可能な「キングファイル スーパードッチ」発売
1997年	8月	〈環境対策委員会〉発足
1998年	1月	キングジム「環境憲章」制定
	3月	再使用を考慮した「キングファイル スーパードッチ〈脱・着〉」発売
	4月	環境推進室 設置
	6月	環境保全活動スタート。主要テーマとして、 ●「テプラ」使用済みテープカートリッジの回収　●オレフィン素材使用の促進
	8月	ISO14001認証取得に向け、つくば工場にて活動開始
1999年	3月	つくば工場 ISO14001 認証取得
2000年	5月	LCAデータに基づいた環境ラベルタイプⅢ型の情報公開
	7月	社内における事務用品購入などのグリーン購入基準を作成し、〈グリーン購入〉を開始
2001年	1月	「テプラ」PROシリーズに鉛フリーはんだを順次導入
	5月	日本野鳥の会の法人会員となる
	8月	再生PPを100%使用した「再生透明ポケット」発売
	9月	廃ガス管から生まれた「キングファイル リサイクルPE」発売
2002年	3月	非木材紙を採用した「図面ファイルGB」発売
2003年	5月	再生PPを100%使用した「クリアーホルダーリサイクル」発売
2004年	1月	再生PPを100%使用した「GボックスPPリサイクル」発売
	5月	生分解性プラスチックを採用した「生分解ファイル」(受注生産品)発売
	7月	再生PPを100%使用した「クリアーファイル リサイクル ヒクタス±」発売
2005年	1月	クロムフリーの「キングファイル エコロジードッチ」発売
	8月	環境委員会に分科会(「製品部会」・「環境保全部会」)を設置
	9月	GHG排出削減目標設定
2006年	9月	CSR報告書 発行

環境推進体制

キングジムでは、環境対策に関する理念・方針・行動指針を明確にし、課題に対し積極的な行動が取れるように1997年8月、社長をトップとして環境対策委員会を発足して取り組んでまいりました(現名称:環境委員会)。さらに、環境志向の高まりに対して的確かつ迅速な対応を可能にするため、委員会を製品部会・環境保全部会の2部会制にして、テーマ別に検討できる体制としました。



Q ▶ 企業としての環境負荷低減への具体的な取組みを　教えてください。

※1 環境会計
事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的（貨幣単位または物量単位）に測定し伝達する仕組み。

※2 環境情報発信
環境に関する法律やマスコミの話題等の最新情報を掲載しています。
過去掲載項目
・グリーン購入法
・京都議定書　等

●環境会計

A 環境会計を算出しました。

2006年度より、環境省 環境会計ガイドライン2005年版を参考にして、環境会計※1の導入を開始しました。今後は、費用対効果を把握しつつ、環境保全活動の活性化に結び付けていきます。

●環境保全コスト

環境保全コスト		
分類	主な取り組みの内容	費用額（千円）
（1）事業エリア内コスト 資源循環コスト	●廃棄物処理 ●リサイクル 等	17,634
（2）上・下流コスト	●カートリッジ回収 ●容器包装リサイクル法 再商品化委託料金	29,553
（3）管理活動コスト	●ISO14001維持 ●従業員教育 ●カタログ制作、展示会出展 等	34,222
（4）研究開発コスト	●開発試作 ●設備 等	68,153
（5）社会活動コスト	●寄付	300
合計		149,863

●従業員教育

A 従業員への環境教育を行っています。

企業の環境負荷低減のためには、従業員の意識や知識の向上が重要です。このため、毎年4月には、新入社員に対する新人研修プログラムの一環として、環境教育を実施しています。

また、全従業員に対しては、社内LANを利用して定期的に環境情報発信※2を行い（2月と8月）、啓発活動を行っています。

新人への環境教育

社内LANによる環境情報発信

●省エネルギー・温暖化防止

A CO_2削減に取り組んでいます。

2005年2月には京都議定書が発効され、日本については温室効果ガス（GHG:Green Houses Gases）を2012年までに1990年比6%削減することが義務付けられました。

キングジムは、このGHG削減運動に共鳴し、社会の一員として、GHG削減のために自主目標を設定して、具体的施策の取組みをスタートしました。

GHG排出削減目標

キングジムの2010年度における、GHG排出削減目標　CO_2（二酸化炭素）換算　16%削減（1995年比）

□ 具体的施策について

まずは日常業務の中で、身の回りの「省エネ」活動から始められるよう、以下の5項目についての取組みを開始しました。

（1）室内温度管理の徹底
冷房時と暖房時における室温管理

（2）照明管理の徹底
不要な照明の消灯や、早朝時・残業時は、必要な箇所のみ点灯する

（3）OA機器管理の徹底
会議や昼食時における、離席時のパソコンのディスプレイはスイッチOFF

（4）アイドリングストップの徹底
営業車などの当社自動車は、駐停車時にアイドリングストップを実施する

（5）エレベーター使用における効率化
階段を利用して昇降出来る階数については、できるだけ階段を利用する

□ 2006年度　実績

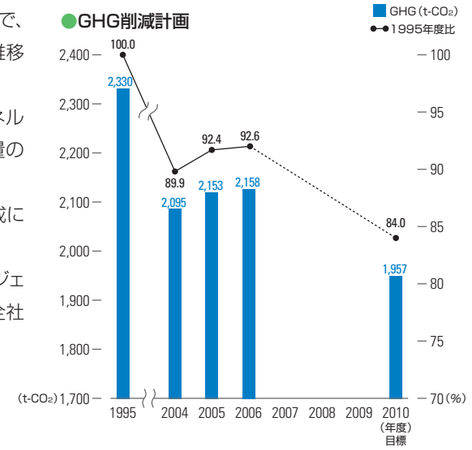
2006年度のGHG排出実績は2,158.3t-CO_2で、1995年度比92.6%となり、ほぼ前年並みに推移する事が出来ました。

2007年度は、つくば工場に導入した省エネルギータイプの空調設備の稼動により電力使用量の大幅な削減を見込んでいます。

社員個人の取組みと併せて、自主目標の達成に向けて前進していきます。

更に、地球温暖化防止のための国民的プロジェクト〈チーム・マイナス6%※3〉にも参加し、全社の啓発につながるよう、努めています。

●GHG削減計画



※3 チーム・マイナス6%
政府が進める地球温暖化防止のための国民運動。京都議定書による、温室効果ガス6%削減約束を達成することを目標としている。クール・ビズやウォーム・ビズもその一環。

●環境マネジメントシステム

A ISO14001の認証を取得し、継続的改善に取り組んでいます。

1999年、つくば工場において、「パイプ式ファイルの製造」で環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しました。その後も毎月、「つくば環境委員会」において、環境保全活動の成果や進捗状況の報告を行い、今後の計画に反映しています。

ISO14001認証取得

ISO14001認証取得
JQA-EM0396 つくば工場

●認証取得概要

事業者名‥株式会社キングジムつくば工場
所在地‥‥茨城県牛久市桂町2200番地1
登録範囲‥パイプ式ファイルの製造
登録日‥‥1999年3月31日
登録番号‥JQA-EM0396

ISO14001認証取得に向け、つくば工場では従業員のキックオフ大会が行われた

つくば工場の2006年度 環境保全活動

①電力の削減
②一般廃棄物の削減
③産業廃棄物（廃プラスチック）の削減
④コピー用紙などの使用量の削減
⑤地域との共生
⑥環境教育の実施
⑦環境に配慮した商品への働きかけ
⑧安全で働き甲斐のある職場環境の確保

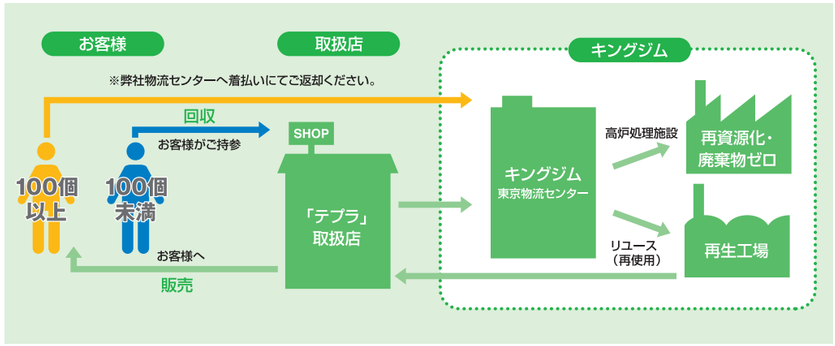
●廃棄物対策・地球温暖化対策

A テプラの使用済みテープカートリッジ回収を行っています。

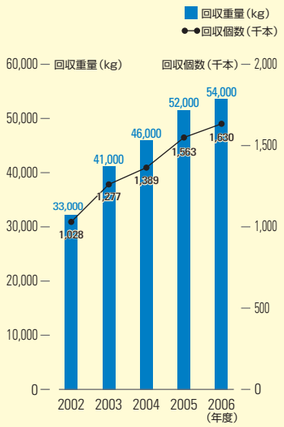
「テプラ」使用済みテープカートリッジ回収

1998年より、ラベルライター「テプラ」使用済みテープカートリッジの回収を開始しています。これは、資源の再使用とゴミの減量化を図ることを目的とした取組みであり、地球環境保全に貢献しています。

●「テプラ」使用済みテープカートリッジ回収フロー



●テープカートリッジ回収実績

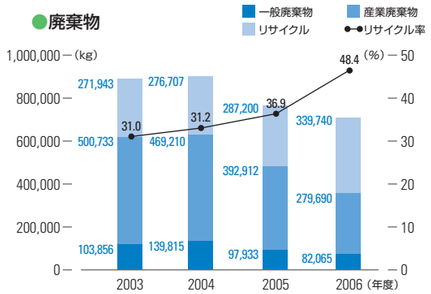


オフィス部門での取組み

オフィスから発生する廃棄物は、1‥可燃物　2‥不燃物　3‥古紙（リサイクル紙）　4‥新聞紙&段ボールの4種類に分別を徹底し、廃棄量の削減に努めています。

本社地区においては、千代田区が運営する「ちよだエコ‥オフィス町内会※1」の会員企業として、紙の分別回収に協力しています。ゴミとして捨てていた紙を、資源としてリサイクルすることによって紙ゴミの減量と省資源化を図っています。

●廃棄物



※算出範囲:キングジム本社、国内工場および物流センター

物流部門での取組み

●廃棄物のリサイクル促進

商品搬送終了後に収集される荷崩れ防止用ラップは、膨大な量になります。このラップは圧縮後、リサイクル業者が引き取り、再生原料化後、再生プラスチック製パレットへと生まれ変わります。

使用済み荷崩れ防止用ラップ

荷崩れ防止用ラップを圧縮

圧縮後の荷崩れ防止用ラップ

●「モーダルシフト※2」の推進

キングジムではモーダルシフトの推進として、九州地区への輸送に鉄道を使用し、環境負荷低減を図っています。

●低公害車の採用

配送車両をCNG車へ切り替えることで、環境への負荷を抑えています。CNG（Compressed Natural　Gas）車とは、圧縮天然ガスを燃料とした自動車です。NOx（窒素酸化物）の発生量が少ないなど、環境負荷低減に役立つ低公害自動車として注目されており、キングジムでは東京近郊のお客様への配送車として活躍しています。

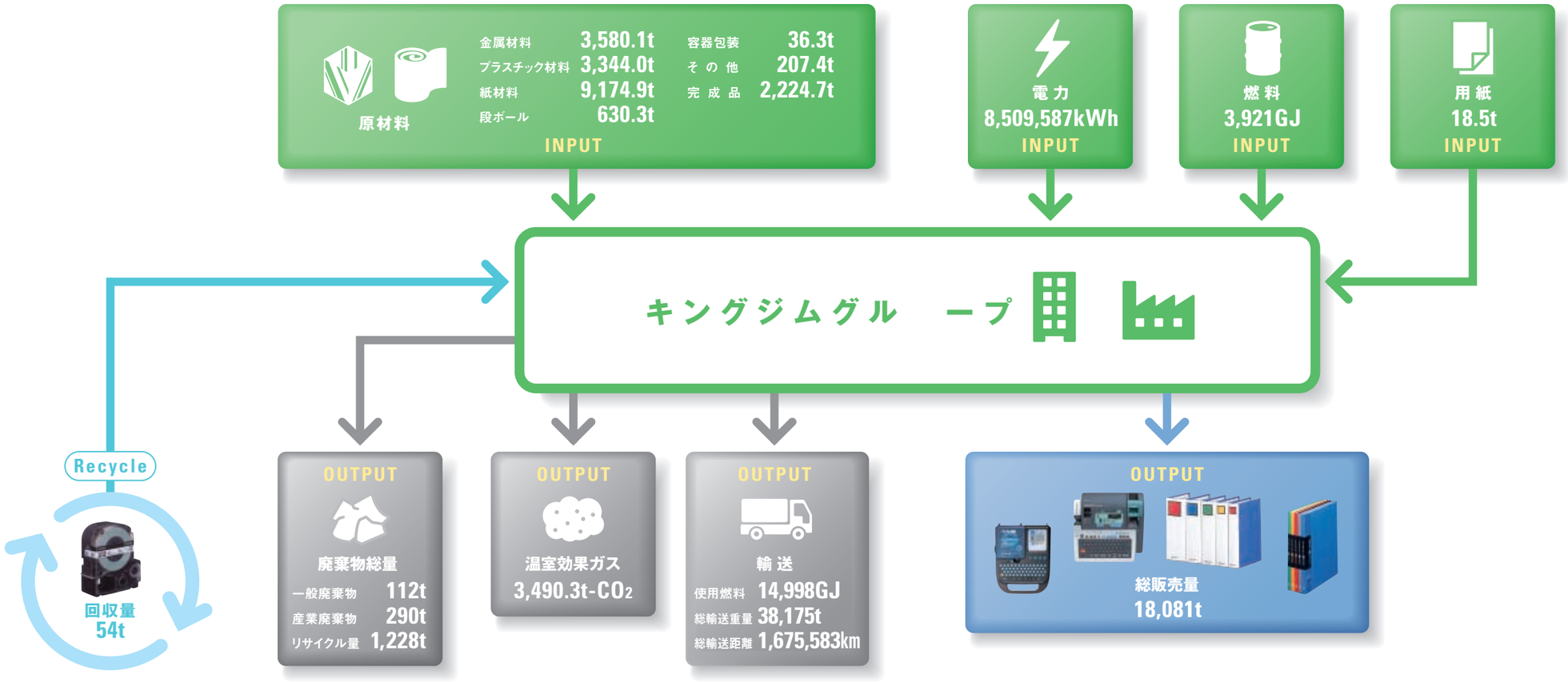
地球にやさしい天然ガス車

※1 ちよだエコ‥オフィス町内会
千代田区と地域内企業が取り組むオフィス古紙リサイクルシステム。

※2 モーダルシフト
輸送手段をトラックから環境負荷の低い大量輸送機関である鉄道または海運へ転換し、トラックとの複合一貫輸送を推進すること。

マテリアルフロー

事業活動にともなう物質やエネルギーを量的に把握して、「消費」と「生産物+廃棄物質」のバランスを見たものを「マテリアルバランス」といいます。
その全体をフローチャート化したものが「マテリアルフロー」です。
キングジムでは、環境配慮商品の開発や温暖化対策を推進していくために、マテリアルバランスを整理し把握することに努めています。



INPUT（インプット）
自らの事業活動に対する資源・エネルギーの投入量。

OUTPUT（アウトプット）
環境負荷物質の排出量や総販売量。

GJ（ギガジュール）
エネルギー投入量を発熱量（J:ジュール）に換算。G（ギガ）とは、10^9のこと。

リサイクル量
リサイクルを目的として
引き取られた量

輸送
トラックや鉄道の利用による、商品の輸送に関する実績。

回収量
回収システムを基に返却された、
テープカートリッジ重量。

温室効果ガス
電気や燃料の使用により発生する二酸化炭素（CO_2）やそれ以外（CH_4,N_2O）をCO_2換算した量。

化学物質管理

PRTR法に基づく化学物質管理

化学物質による環境への影響を防止することを目的として2001年にPRTR法※が施行されて以来、当社各工場においても化学物質の管理や使用削減に向けて取り組んでいます。ファイルの主力工場である、つくば工場や松戸工場で使用しているPRTR法指定化学物質は右表に示した、トルエン、キシレンの2化学物質です。ただし、各工場における年間使用量は、各々1tに満たないため、届出の対象とはなっていません。

●年間使用量（トルエン）

kg	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
つくば工場	539.2	528.4	640.4	693.0	704.0
松戸工場	96.5	113.2	71.0	90.0	77.0
岡山工場	209.9	146.6	–	–	–
Total	845.5	788.2	711.4	783.0	781.0

●年間使用量（キシレン）

kg	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
つくば工場	528.0	506.0	637.8	698.1	706.1
松戸工場	74.1	102.0	71.0	51.3	54.6
岡山工場	189.1	136.2	–	–	–
Total	791.1	744.2	708.8	749.4	760.7

算出期間:PRTR法に基づき、毎年4月～翌年3月
岡山工場は現在操業を終了しております。

※ PRTR法
有害性のあるさまざまな化学物質の環境への排出量を把握することなどにより、化学物質を取り扱う事業者の自主的な化学物質の管理の改善を促進し、化学物質による環境の保全上の支障が生ずることを未然に防止することを目的に制定。

Q ▶ 商品の環境への負荷をどのように軽減していますか？

●「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3R

A 『3R』の視点で環境に適合した商品開発に取り組んでいます。

●3R

キングジムは製品のライフサイクル3R［Reduce（廃棄物などの発生の抑制）・Reuse（再使用）・Recycle（再資源活用・再資源化）］の視点により、環境への負荷をより軽減する商品開発に取り組んでいます。

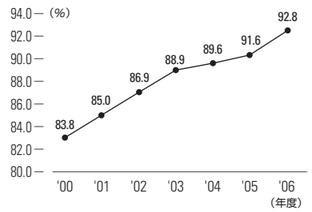
環境配慮商品比率

自社商品中で環境配慮商品点数の占める比率は年々増加を続け、現在ではほぼ9割におよぶ商品が自社制定の環境マーク※1の基準を満たしています。すべての商品に環境の視点を中心に環境配慮商品比率100%を目指して、今後も商品開発とその普及に努めていきます。

●環境マーク一般商品：796品番　●環境マーク電子商品：335品番
●環境マーク商品計：1,131品番

〈2006年6月現在〉

●環境マーク商品比率



リデュース Reduce［廃棄物などの発生の抑制］　ゴミを「減らす」こと

キングジムでは、ゴミを「減らす」「小さくする」「少なくする」ことを第一に考え、長期使用が可能な商品や、つめかえ可能な商品などを企画・開発・設計し、廃棄物の削減に取り組んでいます。

また、「テプラ」テープカートリッジでは回収・再資源化を行い、「廃棄物ゼロ」を目指しています。

長期使用（ロングライフ）が可能なファイル

耐久性のある表紙でかつ背見出し紙の交換が可能な長期使用できるファイルです。
キングファイルなど 合計228品番が該当します。

背見出し紙の交換

中身がつめかえ可能な商品

●「ピタ!ゴラス」カートリッジ
●JETテープカートリッジ

「ピタ!ゴラス」カートリッジ

「テプラ」PROテープ エコパック

個別包装を減らすことによってゴミを削減した環境配慮エコ仕様の簡易包装パックです。

電子文具「テプラ」のエコロジー設計　※2

●テープカートリッジ ストッパー 一体構造
使用時にゴミになるたるみ防止のストッパーを廃止し、カートリッジケースに一体成型しました。これにより、部品点数を減らしゴミを減らす設計です。

●優れた耐久性
表示している文字が消えてしまったら、貼り直さなければなりません。PRO印刷技術による優れた耐久性のラベルは長期間その美しさを保ちます。

●ラベルのムダをなくす工夫
入力中や編集中にできあがりが液晶画面で確認できる「みえ²」機能と「プレビュー」機能により、試し刷りや失敗などのムダが出ないように配慮しています。

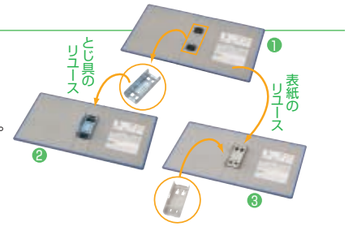
●ラベルの余白を少なくする工夫
印刷ヘッドとカッター間の距離を短くすることにより、不要な余白を減らすことができます。「テプラ」PROでは独自の構造を採用し、約9㎜（業界最小、当社従来機から約半減）を実現しています。

リユース Reuse［再使用］　「くり返し」使うこと

使い捨てではなく、何度もくり返し使用することを考えて商品の開発・設計に取り組んでいます。お客様の使用段階で簡単に部品を交換でき、再使用が可能になる製品設計を行っています。また、PROテープカートリッジは当社で回収し、検査後に良品の一部を再生することも行っています。

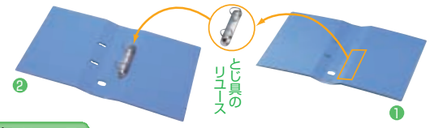
表紙ととじ具のリユース

例）キングファイル スーパードッチ〈脱・着〉N
❶古くなった表紙からとじ具をはずします。
❷取り外したとじ具を「替え表紙」（別売）に取り付けて「再生キングファイル スーパー ドッチ〈脱・着〉N」として使用できます。
❸古くなった表紙に「保存とじ具」（別売）を取り付けて、「再生保存ファイル」として書類保存用にご使用いただけます。



とじ具のリユース

例）Dリングファイル〈脱・着〉
❶活用後のファイルから「とじ具」を取り外します。
❷取り外したとじ具を「替え表紙」（別売）に取り付けて「再生Dリングファイル〈脱・着〉」として使用できます。



ラベルライター「テプラ」使用済みテープカートリッジの回収・リユース

「テプラ」PROテープカートリッジのケースをリユース（再使用）可能な仕様に改良しました。回収後は当社にて検査を行い、カートリッジのケースが良品であれば再生することも部分的に行っています。

リサイクル Recycle［再資源活用・再資源化］　もう一度「資源」として使うこと

キングジムでは、商品開発段階での再生材の使用や、使用後の分別廃棄が可能な仕様にすることにより、もう一度「資源」として使用できるように、リサイクルの促進に取り組んでいます。

また、電子文具の容器包装を簡略化し、包装全体の単一素材化および再資源化を図っています。

商品部材の再生比率アップ

当社商品で多く使用されている素材である紙をはじめ、プラスチックについても順次再生比率のアップを図っています。

	（品番数）
再生紙使用商品（主要部材）	483
再生PP使用商品	297
再生PE使用商品	6
再生PS使用商品	2

〈2006年6月現在〉

分別廃棄対応商品

●キングファイル スーパードッチ・キングファイルG等　255品番

ラベルライター「テプラ」使用済みテープカートリッジの回収・再資源化

市場から回収した使用済みテープカートリッジは、高炉処理による再資源化を行い、「廃棄物ゼロ」を実現しています。

容器包装の簡略化

電子文具の個装箱はもちろん、緩衝材についても段ボール製緩衝材を使用することで、容器包装全体の単一素材化および再資源化を図っています。

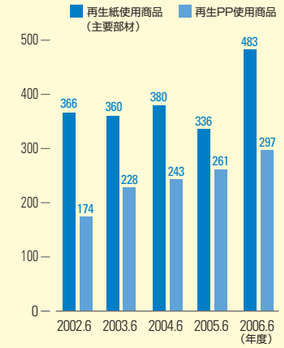
オレフィン素材の使用促進

燃やしても塩化水素ガスの出ない、オレフィン素材の使用を促進しています。

プラスチック部材への刻印

廃棄時に素材ごとの分別廃棄・リサイクル促進に役立つようプラスチック部材には、素材の刻印を行っております。

●素材別再生商品数の推移



※1 自社制定の環境マーク
環境ラベルには、エコマークやグリーンマークなどの公的マークに加え、自社基準による環境マークがあります。詳しくはP8をご覧ください。

※2 テプラ

「テプラ」PRO SR930

Q ▶ 商品の環境への負荷をどのように軽減していますか？

●オルタナティブテクノロジー〈代替技術〉 Alternative Technology

A 環境に配慮した代替技術を活用しています。

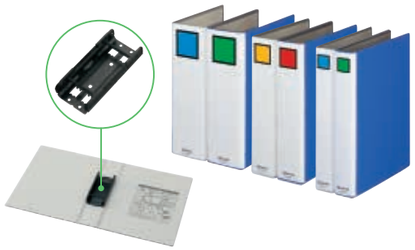
従来の商品素材に替わって、環境への負荷が少なく、有害物質などを含まない新たな素材の研究・開発に取り組んでいます。鉛フリーはんだの導入や、生分解ファイルの商品化を実現し、環境型新素材の実用化の推進とその普及を目指しています。

■ 鉛フリーはんだの導入

生態系など環境への影響が問題視されている「鉛」の使用削減に向けて、ラベルライター「テプラ」では、実装部品において鉛フリーはんだの導入を行っています。

■ 金属表面処理の研究

「キングファイル」の金属製とじ具については、従来品と同等の品質を保持しつつ、環境負荷の少ない金属表面処理方法を採用しています。



●クロムフリーについて

※クロムおよびクロム化合物不使用（金属表面処理におけるクロムフリー）

キングファイル エコロジードッチは環境負荷物質の低減を目指し、環境負荷が少ない代替技術により、とじ具の金属表面加工処理のクロムフリー化を実現いたしました。

■ 生分解ファイル（受注生産品）

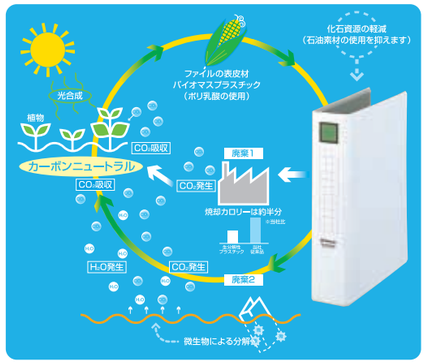
●表皮材にバイオマス※1 プラスチックを採用

キングジムでは業界に先駆けて、ファイルの表皮材にバイオマス素材のひとつである生分解性プラスチック（ポリ乳酸※2）を採用したファイルの商品化を実現しました。原油枯渇の対策となる代替効果（化石資源の保護）が期待できるほか、カーボンニュートラル※3の性質により、地球温暖化の原因のひとつである二酸化炭素の排出量も抑制できます。

●自然界で微生物により分解・同化され、焼却時の燃焼カロリーも約半減

廃棄時には表紙ととじ具が簡単に取り外せ、分別廃棄できます。表紙部分は自然界で微生物により水と二酸化炭素に分解され、自然に同化されます。また焼却の際の燃焼カロリーも当社従来品（PP）の約半分。製造から廃棄までのライフサイクルにわたって、環境負荷の軽減を実現しました。グリーンプラマーク※4認定。

●生分解ファイルの環境負荷軽減概念図



●再生素材

A 『再生素材』にこだわります。

使用が終わった紙製品・PP製品などを素材ごとに分別してさまざまな工程を経て、次の製品の再生素材に生まれ変わります。

これからも資源の有効活用のため、技術とノウハウを生かし、商品開発に取り組んでいきます。

※1 バイオマス
生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、生物に由来する有機性資源のなかから、石油などの化石資源を除いたものを指します。太陽と水と植物がある限り、持続的に再生可能な資源として注目を集めています。バイオマスは2002年12月に閣議決定された「バイオマス・ニッポン総合戦略」で推進されています。

※2 ポリ乳酸
トウモロコシなどのでんぷんから得られる乳酸を原料とした、再生可能な植物由来のプラスチック。
従来の石油系樹脂に替わる環境低負荷素材として期待されています。

※3 カーボンニュートラル
バイオマスは燃焼や微生物による分解で二酸化炭素を発生しますが、これは植物が成長過程で吸収した二酸化炭素を放出するもので、大気中の二酸化炭素量を増加させるものではないとされています。このように二酸化炭素の増減に影響を与えない性質をカーボンニュートラルと呼びます。

※4 グリーンプラマーク
使用中は通常のプラスチックと同じように使えて、使用後は自然界の微生物によって水と二酸化炭素に分解され、自然に還るプラスチックを使用した商品に付けられます。

グリーンプラ 生分解性プラスチック
登録番号 No.565
（株）キングジム
「表皮材に生分解性樹脂を使用」

Q ▸ 人材の活用をどのように行っていますか？

●従業員の状況／従業員数

年度	キングジム単体	
	男性	女性
2002年度	459名	186名
2003年度	446名	173名
2004年度	431名	144名
2005年度	424名	139名
2006年度	421名	136名

年度	グループ全体
2002年度	1,048名
2003年度	1,039名
2004年度	1,034名
2005年度	1,092名
2006年度	1,091名

●人材の登用と活用

A 多様な人材を登用し、均等な働く機会を提供しています。

新人事制度導入

キングジムでは、2006年6月21日より新人事制度を導入しました。これまでの複数の職群により構成された職能資格制度である「複線型職能資格制度」から、従業員一人ひとりが担う「役割」を基軸として、役割とその役割に応じた成果で処遇する「役割責任グレード制度」に刷新しています。この制度により、従業員一人ひとりが担う役割と責任が明確となり、人材の育成を推進することで経営目標を達成できるようになります。

機会均等

キングジムグループでは、2004年9月に制定されたコンプライアンスプログラムに従い、国籍・特定の信条・社会的身分（労基法第3条）や性別（均等法第7条）による差別を排除した採用活動を行っています。

また、同プログラムにより、昇進・配置などにおいても性別・年齢・学歴などによる差別のない制度運用を行い、グレードの変更（昇格・降格）の基準やグループ転換についての基準も明確にされ、働く機会を均等に提供しています。これにより従業員が自己のキャリアプランを描くことができ、従業員が各自の能力を発揮できる環境を整えています。

公正な能力・実績評価

キングジムの行動指針では、従業員に対して「待遇は能力と実績に応じ、公正かつ適正なものでなければならない」と明確に定めています。これに従い、キングジムの評価制度の基本的な考え方として、

①適切な能力開発 ②適正配置・活用 ③納得性の高い評価 ④絶対評価の原則 ⑤公正な処遇の方針の下、人事制度システムを構築しています。

特に、評価制度では、評価における評価点の算出方法を明確にし、考課者と被考課者の面接を行うことで、納得性の高い評価を行うと同時に人材育成に役立てています。

プロジェクトチーム

キングジムでは大きな経営課題を解決・遂行するに当り、部門横断的な「プロジェクトチーム」を編成する制度があります。チームメンバーには発想の柔軟性と専門知識、積極さ、責任感などが求められますが、チームに与えられた命題の中で自由な活動を行うことが出来るため苦労の中でもやりがいを得られ、個人の成長にも大きく貢献するものとなります。古くは現在の主力商品であるテプラを生み出した「Eプロジェクト」から海外工場進出の骨格を作った「Sプロジェクト」等々、常時3つから4つのプロジェクトがチームとして進行しています。

高齢者再雇用制度

「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正により、2006年4月1日より65歳までの雇用確保の措置が実施されました。キングジムでは、これまでも一部の定年退職者に対し嘱託社員として再雇用していましたが、法改正に合わせてこの制度を拡大し、定年退職の際に継続勤務を希望する従業員に対し、基準を設けずに嘱託社員またはパートタイマーとして再雇用する制度に改め、高齢者雇用に対する積極的な取組みを行っています。

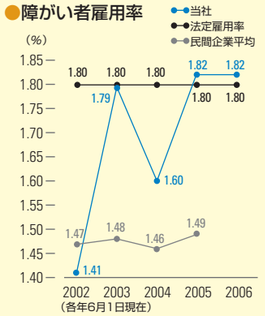
再就職支援制度

定年退職に際し、再就職のための職業能力開発を目的とする学習などに対しては、費用の50%を会社が援助する自己啓発援助制度を利用することができます。さらに、再就職のための職業能力開発および求職活動を目的として休暇をとる際には、積立有給休暇を使用することができます。

障がい者雇用

キングジムグループは、障がいの有無にかかわらず従業員が能力を発揮できる会社を目指しています。キングジムでは、障がい者雇用に継続的に取り組んでおり、健常者と同じ職場でさまざまな業務に従事しています。2006年度の障がい者の雇用率は1.82%で、法定雇用率や全民間企業の平均雇用率を上回っています。

●障がい者雇用率



●従業員のエンプロイアビリティ

A 充実した教育制度で従業員をバックアップします。

従業員教育制度

キングジムでは新人事制度の導入にともない、従業員の育成のために新しい能力開発制度を導入します。能力開発制度は、「キングジムの目指す方向を実現するために、従業員に必要とされる知識・スキルなどの能力を養成するとともに、従業員一人ひとりの成長の自覚を促す。」「経営計画の実現に向け、新市場の開拓、市場拡大、新しいビジネスモデルの創出を目指して、自ら課題を発見・把握し、解決策を導き、成果に結びつけていく自立型人材を育成する。」の2点を目的としています。能力開発制度は、具体的には①基本教育 ②戦略課題教育 ③自己啓発支援 ④業務教育研修 ⑤OJT教育 によって構成され、従業員の成長を支援します。

改善提案制度

「創造」はキングジムが創業して以来の伝統であり、その精神を受け継ぎ、会社と自己の成長発展のために身近な業務の改善でも提案できる改善提案制度があります。この制度では、業務および事務改善に関する提案を、従業員はいつでも提案することができます。主なテーマは、製造方法、品質の向上、業務・工程のレイアウト変更、環境・安全の改善、販売促進の改善、コストダウン、組織・制度の改善などの幅広い内容を対象としています。2006年度は年間900件を超える提案がありました。

Q ▶ 安心して働ける職場づくりのために、どのような工夫を　していますか？

●人権の配慮

A 人権に配慮し、ハラスメントのない職場を維持します。

■ 基本的な人権の擁護

キングジムグループでは、2004年9月に制定されたコンプライアンスプログラムにおいて「基本的人権を擁護し、人を人として尊重すると共に、個人の尊厳を傷つけるような行為は行いません」と明記されており、それに従い職場内の基本的人権の尊重を図っています。

■ セクハラ・パワハラ防止

ハラスメントの禁止については、従業員就業規則の他、コンプライアンスプログラムの中で「いかなるハラスメントも行いません。」と明確に定められています。ハラスメントには、セクシャルハラスメントに限らず、人種、宗教、職場での権限などによるものがありますが、そのようなハラスメントのない職場環境づくりをしています。なお、ハラスメントを万一受けた際には、担当弁護士にスピークアウトできる通報制度も確立されています。

●スピークアウト制度

●安全衛生

A 安全を最優先しています。

■ 勤務時間の配慮

勤務時間の配慮については、長時間勤務低減のため1998年10月より、原則として毎週水曜日をノー残業デーとし、休日出勤命令の禁止などにより、労働時間の適正化に取り組んでいます。

■ 安全衛生

キングジムグループでは、従業員の労働安全の確保を基本と考え、「全社安全衛生委員会」を中心に、各事業所において労働災害の防止や従業員の健康の維持を目的とした活動の推進を図ります。

キングジムグループでの休業に至る労働災害の発生件数は左表の通りであり、今後も安全な労働環境の確保と改善に継続して努めていきます。

●休業に至る労働災害発生件数

年度	件数
2002年度	6件
2003年度	5件
2004年度	2件
2005年度	4件
2006年度	5件

●育児・介護支援

A 従業員の家庭を大切にします。

■ 家庭人としての責任配慮

キングジムには自己申告制度があり、社長および管理本部の役員に、業務や会社の状況について、直接、忌憚のない意見を伝えることができます。この中で従業員の家族の事情などに関する申告については、会社としてできる限りの配慮をしています。

介護などの事情による勤務時間配慮に関する制度として、短時間勤務制度を利用することができます。

■ 育児支援・介護支援

育児休業の支援については、育児・介護休業法の定めに準拠した育児休業などに関する規則を制定し、実施しています。育児休業期間は、原則1年（子が1歳になるまで）ですが、保育所に入所を希望していても入所できない場合には、1年6ヵ月まで休業を延長することが可能な制度となっています。

介護休業の支援についても、育児・介護休業法の定めに準拠した介護休業などに関する規則を制定しています。

育児と仕事との両立の支援のため、2005年4月より「子の看護休暇制度」を導入し、1年に5日まで、病気やけがをした子の看護のための休暇の取得ができます。また、配偶者の出産時の特別休暇の日数を、2日から4日に増加し休暇の取得を推進しています。

●育児休業取得率（女性）

年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
休業取得率	100%	100%	（該当者なし）	75%	100%

（注）国内子会社を含む。

■ 休暇制度

通常付与される年次有給休暇のほかに、2年間の有効期限を超えた年次有給休暇を積立て、長期の傷病などの際に最長40日間の有給休暇を取得できる積立有給休暇制度があり、従業員が安心して勤務できる体制となっています。

また、有給休暇以外にメモリアル休暇制度として、従業員の誕生日または結婚記念日に年に1日の特別休暇を取得することができます。

voice 育児休業利用者の声

人事部 土門雅子

仕事と育児の両立をしていきたい

育児休業中に保育園の入園を希望しましたが、当初は空きがなく1年6ヵ月の育児休業を取得し、無事復職することができました。休業中は、保育園に入園できるのか、復職できるのか、ブランクが長いので復職しても仕事ができるのか、など心配ごとがたくさんありました。無事に入園でき、職場の皆さんに協力していただいたおかげで、スムーズに仕事をすることができました。今後も皆さんに支えていただくこともあるかと思いますが、仕事と育児を両立させていきたいと思います。

Q ▸ 社会との協調のために力を入れていることは何で　すか？

●地域社会・市民社会

A キングジムは、地域社会・市民社会の一員としての意識を持ってさまざまな問題に取り組んでいます。

■ 社会福祉のために

近年、障がいをもつ方が健常者と同じような生活をあたりまえに営めるような社会を実現させようという取組み（ノーマライゼーション）が急速に広がっています。このような社会的背景の中、キングジムは2005年に「点字テプラ」を開発・発売しました。「点字テプラ」を使うことで、点字の知識がない方でも点字ラベルを簡単に作成できるようになります。以来さまざまな場面で使用され、目の不自由な方からの感謝の言葉もお寄せいただいています。

全国の盲学校に「点字テプラ」を寄贈

当社は、この商品を通じて、点字がより身近な場所で活用され、視覚障がい者の生活の一助となることを願っています。2005年12月、当社は全国盲学校校長会を通じ、全国の盲学校に「点字テプラ」を寄贈しました。

■ 環境保護のために

キングジムでは、1991年に「エコロジープロジェクト」を発足させて以来、私たちのかけがえのない地球のために、環境保全活動に取り組んできました。1998年にはファイルメーカーとして商品を供給する立場から「環境憲章」を制定し、環境対策に取り組む理念・方針・指針を明確にしました。さらに、環境推進室を設置し環境保全体制を確立するとともに、さまざまな環境的課題に対して積極的な活動を行っています。企業活動の中で、開発や製造に限らず物流や廃棄・回収などさまざまなシーンでの環境保全に努めています。

このような環境保全活動の一環として、1992年より財団法人日本野鳥の会に協賛支援を開始し、2001年からは法人会員としてその活動を支えています。また、世界最大の民間自然保護団体WWFの日本法人WWFジャパンにも法人会員として登録し、WWFジャパンの自然保護活動を支援しています。

キングジムでは、環境への負荷が少ない商品やサービスの優先的購入を進めるグリーン購入ネットワーク（GPN）に賛同し、GPN会員として自らグリーン購入（環境に配慮した商品や資材調達）に努めています。さらに、ホームページやエコプロダクツなどの展示会への出展などを通して関連情報の発信を積極的に行っています。このような活動の成果のひとつとして、2003年6月には、当社のメイン工場であるつくば工場がある茨城県より環境配慮への取組みが評価され「平成15年度　地球にやさしい企業」として表彰を受けました。

つくば工場が、茨城県知事より「地球に優しい企業」として表彰されました。

■ 芸術・文化・スポーツ支援

スポーツ支援活動の一環として、2002年より日本のテニスNO.1を決める全日本テニス選手権大会に協賛企業として支援しています。

芸術文化支援活動としては、2005年までに57回の歴史を持つ高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に協賛企業として参加しています。将来国際社会の一翼を担うであろう若い方々が、国際語である英語力を磨くことで日本のみならず世界の文化の発展や国際親善への貢献ができるようになることを願って支援しています。

全日本テニス選手権大会の協賛（2005年）

■ 地域社会のために

茨城県牛久市にあるつくば工場では、工場団地内とその周辺の清掃活動に従業員が毎年参加しています。

千葉県松戸市にある松戸工場では、毎年従業員が数十名ほど自発的に献血活動に参加しており、2005年にはその活動に対して千葉県知事から感謝状を受けました。

2006年6月には、本社地区近隣にある都立一橋高校の生徒約20名の企業見学を本社にて受け入れました。会社や事業の説明後、実際の職場を見学してもらうことで職業理解を深めていただきました。

つくば工場周辺の清掃活動。

■ インターンシップ

キングジムでは、学生が在学中に一定期間、実際の職場で就業を体験する「インターンシップ」を2003年より継続的に受け入れています。学生が実際の就職前に就業体験をすることで、企業観の育成に役立ててもらうため、受入を推進しています。

2006年8月のインターンシップは営業本部で展示会や店頭販売の販促企画、広報室では社内、社外の広報活動と広告宣伝の制作体験、人事部では従業員に関連する各種情報のまとめなどを実践的に体験してもらいました。

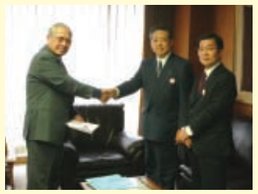
インターンシップ

●インターンシップ実績

年	人数
2003年8月	1名
2004年8月	3名
2005年8月	2名
2006年8月	4名

Q ▶ 国際社会との協調について教えてください。

P.T.KINGJIM INDONESIAの生産風景


2005年3月、スマトラ沖大地震の被災地復興支援として、インドネシアに500万円を寄付。キングジムからの寄付金に加え、全役員・従業員からの寄付を加えました。写真左は駐日インドネシア大使、中央は宮本社長。

●国際社会とのかかわり

A 国際的規範を尊重し、現地法令を遵守しています。

キングジムでは、1998年の香港駐在員事務所開設に続き、2005年には中国の上海錦宮牧野国際貿易有限公司を子会社化するなど、中国を中心とした海外への販売ルートの拡大を進めています。また、海外生産子会社として1996年にP.T.KING JIM INDONESIAをインドネシアに設立したのを皮切りに、1998年にはマレーシアにKING JIM（MALAYSIA）SDN.BHD.を、さらに2002年には中国に関連会社の大連錦宮事務用品有限公司を設立しました。さらに、1990年代後半頃から前述の子会社以外にも海外生産拠点を求めた結果、海外生産比率はファイル類で約20%に達しています。

このように、海外での事業展開を積極的に進めていく上で、国際社会とのかかわりをより意識する必要がでてきました。そこで、キングジムグループとして2004年9月に制定したコンプライアンスプログラムの中で「海外との取引にあたっては現地の関係法令を遵守するとともに、その文化や慣習を尊重することで、良好な国際取引関係を形成する」と宣言し、国際的規範の尊重と現地法令の遵守を図っています。これはキングジム本社が海外と直接取引する場合にとどまらず、海外子会社自身も現地法令の遵守と文化・慣習を尊重すべきものとして、現地採用従業員にも理解できるように現地語に翻訳したものを事務所に掲示して徹底を図っています。

また、海外子会社の従業員就業規則を設けるにあたっては、国際的規範および現地法令にかなうように配慮しています。

国際社会との協調

2004年12月に発生した「スマトラ沖大地震およびインド洋津波」は周辺各国に未曾有の大きな被害をもたらしました。キングジムにはインドネシアに子会社としてP.T.KING JIM INDONESIAがあり、幸いにも直接的な被害はありませんでしたが、実際に被害を受けた方々に対して少しでも貢献できることはないかと考え、とりわけ被害の大きかったインドネシア大使館に対して復興を祈念して義援金を寄贈しました。会社としての寄付だけでなく、役員・従業員からなる社内の親睦組織「むつみ会」の会費からも寄付金を拠出いたしました。

また、マレーシアにあるKING JIM（MALAYSIA）SDN.BHD.では、マレーシア国内の身体障がい者支援グループからの協力要請を受け、「身体障がい者への職業訓練を支援し、社会復帰の手助けをする」という活動の趣旨に賛同して積極的に協力させていただくこととし、すでに生産の一部を身体障がい者支援グループに委託しています。

2005年9月には社団法人全日本文具協会（全文協）が、国連環境計画（UNEP:本部ナイロビ）の呼びかけに応じて、世界の子どもたちへの環境教育をサポートするために、特に恵まれない発展途上国の子どもたちに環境配慮文具を寄贈することを決定しました。全文協に加盟している当社としてもその趣旨に賛同し、再生素材を使用したクリアーファイルを寄贈しました。

●海外拠点

海外生産工場

INDONESIA
P.T.KING JIM INDONESIA

キングジムの主力商品の一つであるクリアーファイルを中心とした化成品ファイルを生産する工場です。現在、日本への輸出が主ですが、将来的には全世界での販売を目指しています。高品質で低価格の商品を提供するために1997年に設立。1999年には第2工場も開設し規模を拡大。主要部材のPPシート材の内製化など大幅なコストダウンを実現しています。

MALAYSIA
KING JIM（MALAYSIA）SDN.BHD.

キングファイルの心臓部ともいえる金属とじ具の生産工場です。高い品質を維持し、かつ低価格を実現するため1998年に設立しました。生産した金属製とじ具は主に、日本へ輸出されパイプ式ファイルシェアNo.1の「キングファイル」のとじ具として、多くのオフィスで活躍しています。

海外生産工場

DALIAN
大連錦宮事務用品有限公司

事務用ファイル製品および文房具の製造・販売を行う工場として、現地企業との合弁で2002年に設立しました。拡大が予想される中国国内市場向け商品の生産、部材調達の情報収集等を行っています。

海外販売会社

SHANGHAI
上海錦宮牧野国際貿易有限公司

広大で経済発展の著しい中国市場に、ファイルを中心とした文具・事務用品を販売する目的で2002年中国・上海に設立しました。上海や北京を中心に、中国の主要な各都市での売上を拡大するため販売ネットワークを拡張していきます。

※1 HONGKONG
香港駐在員事務所
中国・アジアでの営業支援と情報収集のために、香港に駐在員事務所を設置しています。

P.T.KING JIM INDONESIA

KING JIM（MALAYSIA）SDN.BHD.

社会的責任を果たす企業として。

経営理念の明確化

キングジムの歴史は、1927年に創業者・宮本英太郎が人名簿、印鑑簿を発売し、名鑑堂という名で創業したことに始まります。「人が喜ぶものを創りだそう」という創業者の決意を原点として、社名が名鑑堂から現在のキングジムへと変わっていっても、「発明をする」すなわち「世にないものを創る」という社風を絶えず持ち続けてきました。そのことが、「キングファイル」やラベルライター「テプラ」など独創的で社会の役に立つ商品を次々と開発し、日本のオフィスに新しい文化を根づかせることにつながっていきました。さらに、企業として経営の合理化に努めるのはもちろんですが、現状に満足せず常により良いものへと改良を重ねて高い品質を持つ商品を提供し続け、社会の公器としての自覚を強く持ち社会的責任を果たすことを常に自らに課してきました。その結果、キングジムの商品は多くの皆様に愛用され、キングジムは確固たる企業価値を認めていただくまでになりました。

このような伝統や歴史を踏まえて明文化したのが、数度の改定を経て2003年1月に制定された現在の経営理念「独創的な商品を開発し、新たな文化の創造をもって社会に貢献する」です。つまり、キングジムの経営理念とは、当社のこれまで培ってきた歴史そのものとも言ってもよいでしょう。キングジムは創業以来、メーカーとして商品開発という事業活動を通じて社会に貢献することが、最も重要なことと考えてきました。独創的な商品を開発するということは大変困難なことではあります。しかし、この難しい課題にチャレンジし続けてきたからこそキングジムはここまで成長することができましたし、これからもさらに成長を続けていきたいと考えています。この経営理念は、その短い言葉の中にキングジムの信念が凝縮されています。また、だからこそ、キングジムの全社員の胸に深く刻み込まれるものともなっています。この経営理念にあわせて、行動指針も制定しました。これは、経営理念を個々の具体的行動に移していく際のチェック基準となるもので、それを念頭に置きながら日々の企業活動に臨み経営理念の実現を目指しています。

経営理念・行動指針の周知徹底

経営理念および行動指針は、各部門・子会社に掲示するだけでなく、携帯カードを作成して全従業員に配布し、周知徹底を図っています。また、全従業員は年一回、自己申告書を人事担当役員宛に提出する機会があり、社長・管理本部長・人事担当役員はこれに全て目を通し、必要があれば面談するなど、当社が社会的責任を果たすために、社内外で問題があれば、芽の段階で現場の声を聴き、改善するシステムを構築しています。

携帯用カードの配布（経営理念の浸透）

2003年1月に改定された経営理念と行動指針は、すぐに各事業所に掲示されましたが、それに続いて2003年2月には正社員・パート社員（短期を除く）・国内子会社社員に対して経営理念・行動指針が印刷された携帯用カードを配布いたしました。それ以後入社した社員全員にも同様に配布を続けています。

経営理念

独創的な商品を開発し、
新たな文化の創造をもって社会に貢献する

行動指針

見つめよう市場　見なおそう慣行　見つけよう新発想

顧客に対して

商品およびサービスは、十分な顧客満足を果たさなければならない。
新商品開発は、市場開拓型の独創的な企画を追求しなければならない。
その品質は顧客の求める水準に維持され、かつ適正な価格でなければならない。

社員に対して

社員の個性を尊重した能力開発とともに、自由闊達な提案や意見具申ができるなど、
能力を生かせる職場環境を保たなければならない。
待遇は能力と実績に応じ、公正かつ適正なものでなければならない。

株主に対して

常に顧客の信頼と理解を得られるよう、情報を積極的に開示しなければならない。
企業価値の増大と株主への利益還元に努めなければならない。
コーポレートガバナンスを強化し、公正かつ透明性の高い経営を行わなければならない。

社会に対して

商品は、文化の向上に貢献できるものでなければならない。
社内のコンプライアンス体制を整備し、
社会の一員としての意識とモラルを持たなければならない。
商品と企業活動を通して、常に環境と資源の保護に努めなければならない。

信頼され、選ばれる企業であり続けるために。

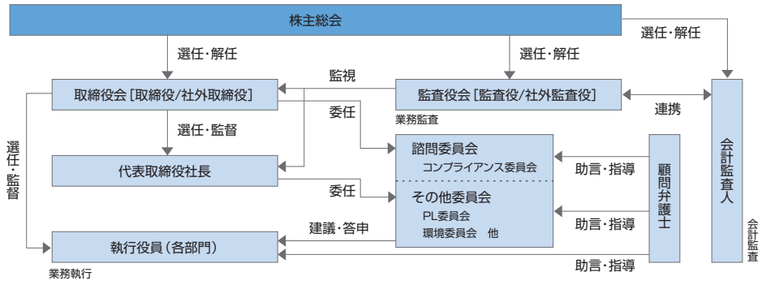
取締役会・監査役の実効性の強化

キングジムでは、業務遂行の責任と権限を明確にし、取締役の監督機能と執行機能を区別することを狙いとして、執行役員制度を導入しております。取締役会をスリム化することで、議論の充実と意思決定のスピード化を高めております。

取締役会は月1回開催されており、適切な経営判断を行うため、社外取締役、社外監査役制度を導入しています。定例の取締役会の中間には、業務に精通する各本部の執行役員を兼務する取締役と常勤の監査役で構成される常務会を開催し、変化への迅速な対応をすべく、詳細な議論を行えるようにしています。

内部統制の面につきましては、執行役員に直結しない独立機能の監査室を社長直轄で設け、各部門・子会社の業務における監査を適時行っており、その結果はすべて監査役にも報告される仕組みとなっております。ISO認証資格を得ている情報セキュリティ、環境マネジメントについては、それぞれISOで指定される内部監査を行っています。

●キングジム コーポレートガバナンス



自由・公正・透明な取引・競争

キングジムでは自由・公正・透明な取引を基本としています。製造部門では定期的に下請法など購買に関するセミナーを担当者が受けており、販売部門では独占禁止法、景品表示法に関するマニュアルを作成し担当部門に配布するなどし、社内周知と情報の共有を図っています。取引に関する決裁時には必ず法令との適合性チェックを受ける仕組みとしております。

CSRマネジメント体制の確立

全社に流れるCSRの考え

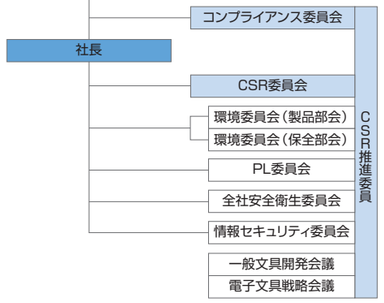
キングジムでは、すでに1993年4月に制定した行動指針（当時は経営理念）で「顧客に対して」、「社員に対して」、「社会に対して」（2000年9月に「株主に対して」を追加）と各ステークホルダーに対する責任と果たすべき役割を明確にしており、その精神は脈々と受け継がれてきました。

近年の企業不祥事の頻発や地球環境の持続可能性への懸念を背景としたCSRへの関心の高まりを機に、改めてCSR活動を見つめ直し、これをさらに強力に推し進めることをねらいとして「CSR推進チーム」を2005年12月に立ち上げ、CSR項目の社内評価を行ったうえで永続的なマネジメント体制を答申し、承認されました。

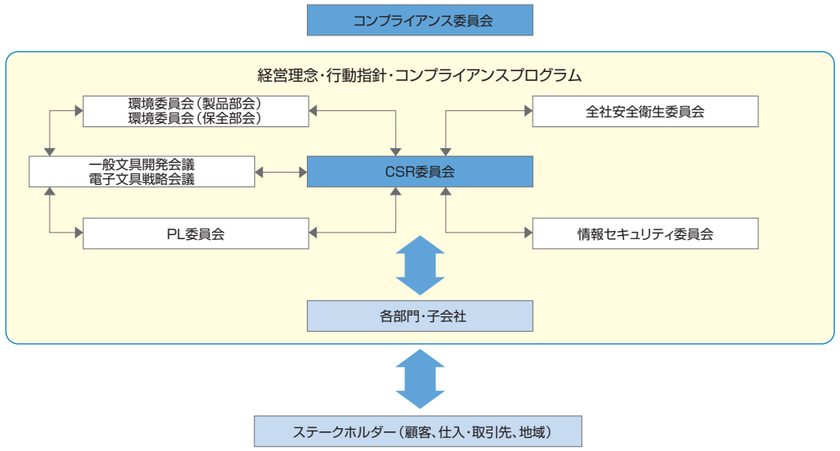
CSRマネジメント体制

2006年8月より経営企画室担当役員を推進責任者として「CSR委員会」を発足いたしました。委員はCSR項目を担当する専門の委員会の事務局とお客様窓口であるCS部、広報室員で構成され、CSRマネジメント推進体制の中核として、さまざまなCSR課題を横断的に検討し、方針と戦略のチェック、評価などを行っていきます。このような活動を通じて、経営理念の実践、企業価値のさらなる向上、ステークホルダーの皆様の満足度向上、そしてさまざまな経営リスクの軽減に結び付けていきたいと考えています。

●CSR組織



●CSR委員会と専門委員会との連携



コンプライアンス体制の確立

キングジムは、経営理念、行動指針、並びに最上位規程として位置付けられたコンプライアンスプログラムにより、法令および定款を遵守するとともに、企業倫理の実践を図るため、役員および従業員が自らを律し行動することとしています。管理本部長をコンプライアンス統括責任者と定め、常務取締役以上と外部の顧問弁護士をメンバーとしたコンプライアンス委員会を設置しています。また、内部通報に関する窓口としてスピークアウト制度を設けています。万一、コンプライアンス上に疑義のある行為が行われ、また行われようとすることに気付いた者は、スピークアウト制度により、社外の顧問弁護士に通報することができる体制となっています。通報者の正当な行為は、従業員就業規則によって保護され、不利益となる扱いは受けません。監査役は、キングジムグループのコンプライアンスの状況を監査するとともに、コンプライアンス委員会から報告を受け、その運営を監査します。

コンプライアンスプログラム

私たちキングジムグループのすべての企業行動は、コンプライアンスに根付いたものでなければならない。

- ●私たちキングジムグループの一員は、企業倫理や法律に反した行動をとりません。万一、企業倫理や法律に反する行為、または疑わしい行動を知った場合は、コンプライアンスの体制に則って、適切な対応をとります。
- ●私たちキングジムグループの一員は、合法的でかつ清廉な行動をとります。
- ●私たちキングジムグループの一員は、コンプライアンスの精神に反する不当な利益追求を行いません。

コンプライアンスの指針

●環境の保全
私たちキングジムグループの一員は、環境配慮活動に積極的に取り組み、地球規模での環境負荷の軽減に努めます。

●贈収賄などの禁止
私たちキングジムグループの一員は、社外とのクリーンな関係を保ちつづけ、贈収賄など、キングジムブランドを汚す行為は行いません。

●良好な国際取引関係の形成
私たちキングジムグループの一員は、海外との取引にあたっては、関係法令を遵守すると共に、その文化や慣習を尊重し、良好な国際取引関係を形成します。

●反社会的勢力との対決
私たちキングジムグループの一員は、暴力団などの反社会的勢力・団体とは、一切の関わりを持ちません。また、不当な要求には一切応じません。

●独占禁止法の遵守
私たちキングジムグループの一員は、独占禁止法やその関係法令（景表法、下請法等）を遵守し、公正で、自由かつ透明な競争を行います。

●知的財産の尊重
私たちキングジムグループの一員は、キングジムグループの知的財産権を尊重すると共に、他人の権利を尊重します。

●不正競争の防止
私たちキングジムグループの一員は、不正競争防止法を遵守します。また、その精神に則り、オリジナリティーを尊重した商品開発を心がけると共に、常に業界のトップブランドであり続けます。

●基本的人権の尊重
私たちキングジムグループの一員は、基本的人権を擁護し、人を人として尊重すると共に、個人の尊厳を傷つけるような行為は行いません。

●労働関係法令の遵守
私たちキングジムグループの一員は、労働関係法令を遵守し、快適で安全な労働環境の維持・向上に努めます。

●ハラスメントの禁止
私たちキングジムグループの一員は、いかなるハラスメントも行いません。

●インサイダー取引の禁止
私たちキングジムグループの一員は、インサイダー取引を行いません。

●秘密情報の適切管理
私たちキングジムグループの一員は、営業秘密、ノウハウ、個人情報などの秘密情報を適切に管理します。私たちキングジムグループの一員は、これらを不正に使用したり、第三者に漏洩することは致しません。

広報活動

マスコミ向け広報活動として、新商品を中心に、年間36回（2006年度実績）のプレスリリースを発行。主として東京商工会議所記者クラブでの発表活動を行っています。マスコミ発表の方法と時間は、日本証券業協会「企業情報開示の手引き」に則り、適正に行っています。

広報活動の原則として、虚偽の情報が伝わらないよう、発行リリースはもちろん、取材時にも誤解の無いよう慎重を期しています。また、マイナス情報に関しても、事実の伝達を優先し、虚飾情報を排することで、記者との信頼関係を構築しております。

IR活動

2005年12月の東証1部指定を受けて、これまで以上にIR活動を強化させ、年2回の決算説明会に加えてIR関連イベントへの参加※1を行っています。IR関連情報の開示は東京証券取引所の「上場関連規則」および「会社情報適時開示ガイドブック」に従い、適正に実施しています。

これらの発表開示情報は当社ホームページ（www.kingjim.co.jp）に掲載し公開しています。このほか、印刷物として、年間業績を中心とした「株主通信（旧事業報告書・2006年9月発行分より名称変更）」や、「会社案内」（和文・英文）を年1回改訂し発行しています。

ステークホルダーとのコミュニケーション

各ステークホルダーとの主なコミュニケーション接点は次のとおりです。

顧客接点	ユーザーを対象とした各種展示会（ISOT、ビジネスショウ、WPCなど）や、流通業者を対象にした見本市への出展。媒体を利用した商品広告・企業広告。全国のお客様相談室での、電話・メール・ご来社へのご対応。
社員接点	印刷物やイントラネットを利用した社内報の配布、社内広報ビデオの配信。
株主接点	ビジュアル化で分かりやすい説明に徹した株主総会と、株主とキングジムの役員が経営方針について意見を交わす株主懇談会の開催。証券アナリストに対しキングジムの経営成績と経営方針を説明する決算説明会の開催。個人投資家に対しキングジムの業績を説明するために開催する個人投資家向けIRフェアへの出展。
社会接点	商品販売を目的としない社会貢献活動、消費者啓発を目的とした社外広報活動。

キングジムでは4つの接点で積極的コミュニケーション活動を行うと共に、それぞれを融合させ密度の高いコミュニケーションを行っています。

※1 IRフェア
個人投資家向けに開催される「日経IRフェア」に参加し、企業説明を行う。

ビジネスショウ・ISOT

各種展示会に積極的に参加。商品を直接見ていただいたうえで、貴重なご意見を伺うことができる展示会を、コミュニケーションの場として重視している。

中長期的な経営戦略

「基本事業の成長」、「新規事業の育成」、「経営体質の強化」を柱とした2007年6月期を初年度とする3ヵ年の中期経営計画を策定しました。目標としては、事業の深耕と拡充により売上高350億円、ROE（株主資本利益率）8.0%の達成を目指していきます。

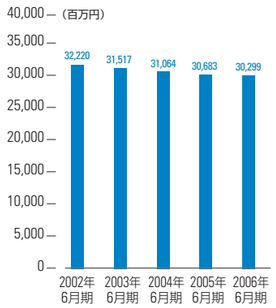
「基本事業の成長」においては、一般文具事業では既存市場に次世代化商品を投入するとともに、ニーズに最適なチャネル開発を行い、新たな商圏拡充を行なっていきます。電子文具事業ではラベルライター「テプラ」のコア技術を生かした商品展開により市場の拡大を図るとともに、電子技術の進歩により社会のニーズにマッチした商品の新たな研究開発を行なっていきます。

「新規事業の育成」においては、次の3つの策に尽力します。1つ目はオフィスを取り巻く社会変化に対応すべくソリューション分野、セキュリティ分野のシステム開発の立ち上げです。ソリューション分野では既に派遣業、多店舗業に最適な勤怠管理システムを発売しており、事業基盤の確立に注力します。2つ目は「基本事業」の商品および技術の海外展開です。その実現のひとつの手段として昨年中国の販売会社をグループ化しました。3つ目はこだわりのニーズへの対応です。グループ会社で販売している雑貨的味わいのあるパーソナル用品を強化していきます。

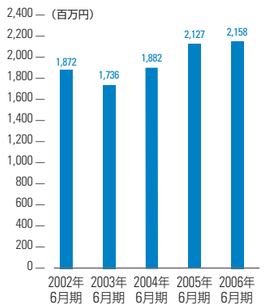
「経営体質の強化」においては、CSR経営の推進とコーポレートガバナンスの強化、および会社全体のチャレンジ風土の定着を目指していきます。CSRについては2006年8月より推進委員による委員会を設け、持続的に活動・推進できる体制としました。また、チャレンジ風土の定着については、2006年7月より新人事制度をスタートし、取り組んでいます。

財務データ

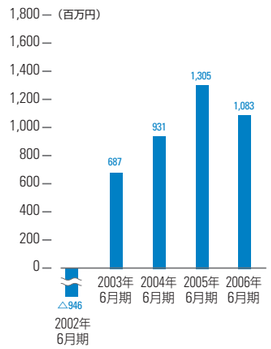
●売上高



●経常利益



●当期純利益または当期純損失



●沿革

1927年	創業者·宮本英太郎が特許人名簿、印鑑簿を発売。
1947年	ルーズリーフ、バインダー、各種ファイル類を生産発売。
1948年	「株式会社名鑑堂」を設立。
1953年	大阪支店を開設。
1961年	社名を「株式会社キングジム」に改称。 名古屋支店を開設。
1964年	「キングファイル G」を発売。 松戸工場操業開始。
1981年	福岡支店を開設。
1984年	東京物流センターを開設。
1987年	東京店頭市場に株式を登録。
1988年	ラベルライター「テプラ」を発売。
1989年	つくば工場操業開始。
1990年	大阪物流センターを開設。
1993年	「キングファイル G」累計販売冊数1億冊、 「テプラ」累計販売台数100万台を突破。
1995年	「テプラ」累計販売台数200万台を突破。
1996年	P.T.KING JIM INDONESIAを設立。 「キングファイル スーパードッチ」を発売。
1998年	KING JIM（MALAYSIA）SDN.BHD.を設立。 香港駐在員事務所を開設。 つくば工場と電子文具事業開発本部で、ISO9001の認証を取得。 環境憲章制定。
1999年	「パイプ式ファイル」累計販売冊数3億冊を突破。 つくば工場で、ISO14001の認証を取得。
2000年	P.T.KING JIM INDONESIAにおいて、クリアーファイル主要部材を内製化。
2001年	「パイプ式ファイル」商品群を「キングファイル」ブランドで統一。 東京証券取引所市場第二部に上場。
2002年	中国に関連会社として大連錦宮事務用品有限公司を設立。 松戸ロジスティクスセンターを開設。 中国に上海錦宮牧野国際貿易有限公司を設立。
2003年	「テプラ」累計販売台数500万台を突破。 クリアーファイル「ヒクタス±」を発売。
2005年	ソリューション事業進出。 点字もできる「テプラ」発売。 営業推進部で「BS7799」「ISMS」（情報セキュリティマネジメントシステム）の認証を取得。 東京証券取引所市場第一部に指定。

特許人名簿

旧社屋

東京証券取引所市場第一部に指定。

File ファイル

キングジムのファイルは、その革新性とバリエーションの豊かさで、オフィスを中心に多くのユーザーに活用されています。

特に「キングファイル」は、日本のオフィスに「ファイリング」の考え方を普及させたスタンダードファイルとして信頼を集め、パイプ式ファイルで国内シェア1位（矢野経済研究所調べ）を持続しています。近年、特に環境に配慮した仕様の商品開発に力を注いでいます。

また、一見成熟化したと考えられがちなファイル分野で、ユーザーの感じる「負」の要素を徹底的に追求し解消する、次世代型の新製品を次々に発表し、注目されています。

「クリアーファイル　ヒクタス±」では、ポケットを固定したタイプの「クリアーファイル」の手軽さをそのままに、新開発のとじ具によってポケットの増減を可能にしています。「フラットファイル　クイックイン」では、これまでのフラットファイルの書類の綴じにくさを解消するために、スプリング製の「とじ足」と「スライドとじ具」によって、スムーズな書類の抜き差しを実現しました。

また、ユーザーのファイル活用の具体的ニーズにお応えした「取扱説明書ファイル」や「デジカメファイル」など、キングジムはファイルの商品ジャンルに新しいインパクトを与えています。

フラットファイル クイックイン
PP製と紙製のラインアップで、最もポピュラーな「フラットファイル」の分野を革新した。

キングファイル
ニーズに合わせた多くのバリエーションがあるが、棚に並べた時のファイルの外観デザインは統一されており、美しく機能的なオフィスを演出する。

テプラ Tepra

「テプラ」は、「ファイルの背見出しを見やすく表示したい」というニーズから生まれました。ラベルに漢字混じりの美しい文字を印刷するコンパクトなラベルライターという「テプラ」のコンセプトは、「ラベルを活用する」という多様な需要にお応えし、1988年の発売以来、500万台を越える実績を持っています。

また、2005年5月発売の「点字テプラ」（SR6700D）では、点字への翻訳と打刻機能を備え、大きな反響を呼びました。この「テプラ」は、低コストで手軽に点字ラベルが作れるうえ、1枚のラベルに通常の印字と点字を同時に表示でき、点字利用者と健常者の両者に対して同じメッセージを伝えることが出来ます。2006年4月に発売されたオフィス向け上位モデルのSR930では、公共表示などに適した定型文を日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語で表示できるなど、ビジネスユースの新需要を開拓。「テプラ」は、ますます広がる表示ラベルのニーズの多様性に応え、「ラベルライター」のジャンルを牽引しています。

「テプラ」PRO SR6700D

「テプラ」PRO SR930

Solution ソリューション

「ソリューション事業」として、「勤怠管理」「補助業務の支援」「文書管理業務」等の分野で多彩な商品群を展開しています。

特に勤怠管理システム「クロックオン」シリーズでは、ICカードを活用した合理的で安価な勤怠管理システムや、携帯電話とQRコードを活用した、派遣業務向けの画期的な勤怠管理システムをご提案しています。キングジムならではの「商品」と「サービス」による、「ソリューション」をご提案しています。

クロックオン
ICカードを活用した、気軽に導入できる勤怠管理システム「クロックオン」シリーズ。写真はネットワークに対応するCLR500。

グループ会社の製品

ラドンナ LADONNA

「ラドンナ」のフォトフレームは、暮らしのシーンを豊かに彩るベーシックなフレームから、遊び心いっぱいの楽しいフレームまで、ギフト需要を中心に百貨店店頭でシェアNo.1を誇ります。

ソフィスティ
気品溢れる煌びやかなデザインはブライダルギフトとしても最適です。

ライティングフォトフレーム “&ON（アンドオン）”
パネルが光る新コンセプトのフォトフレーム。プリンタで印刷したフィルムをセットするだけ。デジカメで撮影した思い出の一枚を鮮やかに再現します。

G classer Gクラッセ

個人向けファイル・収納用品

「Gクラッセ」の手がけるデザイン性の高い個人向けファイル・収納用品は、インテリアとのコーディネートに最適です。素材や質感にこだわったワンランク上の上質な商品をご提供しています。

WATCH&CLOCK

カタログギフトを中心に販売する「Gクラッセ」は、WATCH&CLOCKで様々なブランドを展開。男性用・女性用ともに個性豊かな時計を多数ラインアップしています。

キングジムの「CSR報告書2006」を読んで

株式会社FEM
代表取締役　持立 真奈美

キングジムがはじめてCSR報告書を世に送り出すことは、大変喜ばしいとともに、消費者の方々にとっては意外だと思われるかもしれません。なぜなら、いち早く自主的に、環境配慮型の斬新な製品を創り出し、社会的に有意義な製品開発や活動がなされてきたからです。

今回まず評価すべきことは、社長のトップメッセージにもあるように「直接・間接を問わず、様々な形で社会に影響を与えている」ことを意識しながら、新市場の創造のために、社会的責任を考え、そして配慮し、率先的に取り組んできたことを、誰もがこの報告書で読み取ることが可能となった点でしょう。

製品の環境負荷低減のための活動は、もはや当然とされる世の中といえます。環境会計導入やモーダルシフトの取組み、3Rの実践においても、かなりの努力がなされています。また、独自の基準とマークを導入するなど消費者が理解しやすい点も同様ですが、それ以上に、この報告書から知ることができたのは、どのような背景から新商品の開発がなされてきたのか、ということです。

新製品の開発段階で、キングジムが唱えている「社会意識の高い開発」とは何か。たとえば、「点字テプラ」は、ユーザーの声に耳を傾けることの重要性から、従業員と外部関係者を含めたコミュニケーションの結果、形となった製品だと見受けられます。また、その活用事例からもノーマライゼーション社会への実践が理解できます。障がい者雇用の観点からも、普段使用する身近な製品を誰もがより使いやすくする、この業界にとって必要不可欠かつ素晴らしい試みだと実感します。

このように、「キングジムCSR報告書2006」は、創業以来今までなされてきた、多くの活動内容と志をQ&A形式で分かりやすく伝えようと工夫されています。しかし、さらにこの報告書を通じてCSRを推進していくためには、コミュニケーションを深める方法を考えることが必要だと思います。

たとえば新製品の開発で、従業員がどう感じ、考え、試みてきたかを現場の声や直面している問題、またその対策から今の活動への道筋になった部分まで、社長をはじめ“人”に焦点をしぼり紹介すると社風や企業文化も感じられ、良いのではないでしょうか。さらに、今後変化する要素は指標設定し、その経年変化をフォローすることもお勧めします。

キングジムが目指す社会貢献である「新市場の創造」。今後も外部の多くの意見を取り入れ、多角的に検証しながら進化するために、CSRマネジメント体制の今後の活躍と、企業価値の向上を期待します。

PROFILE

Mochidate Manami
持立 真奈美 氏

自然環境と人間の経済・社会活動のバランスをテーマに、森林分野における環境管理・監査の適応とその効果に関する研究を行う。
また、環境コンサルティング、環境資源ガイドライン等の作成、翻訳（地球白書等）、環境に関する試験問題作成、環境教育、講演、執筆、環境関連企画シンポジウムの企画・司会・進行・コーディネートなどを手掛ける。
2002年6月　森林の保全を中心としたNPO法人ECOVICを設立、また、2003年10月（株）FEMを設立、代表取締役に就任、現在にいたる。

現在
- ●株式会社FEM　代表取締役
- ●NPO法人ECOVIC（エコヴィック）代表理事
- ●NPOエコ・エコノミー協会　理事
- ●NPO法人国産材　理事

主な経歴
- ●ワールドウォッチ研究所　日本副代表
- ●「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議運営委員
- ●NPO法人　エコロジー・カフェ理事

●会社データ（2006年6月20日現在）

商　　号	株式会社キングジム　KING JIM CO.,LTD.
代表取締役社長	宮本　彰
創　　業	昭和2年（1927年）4月
設　　立	昭和23年（1948年）8月
資 本 金	19億7,869万円
株　　式	東京証券取引所市場第一部 証券コード7962
従業員数	557人
所 在 地	東京都千代田区東神田二丁目10番18号
事業所数	支店・営業所・出張所…14 工場（国内）…2　物流拠点…3
連結子会社	株式会社キングビジネスサポート 株式会社Gクラッセ 株式会社ラドンナ キング産業株式会社 P.T.KING JIM INDONESIA（インドネシア） KING JIM（MALAYSIA）SDN.BHD.（マレーシア） 上海錦宮牧野国際貿易有限公司（中国）
関連会社	大連錦宮事務用品有限公司（中国）

●編集後記

事業は結果で評価されるのは当然ですが、良い結果を生む土壌となるのはまさにCSR推進活動と言えます。今回「CSR報告書」の発行に当たって、単に事業活動の報告でなく、そこに至った経過や動機を記載することで、持続的に社会から信頼される企業でありたいというキングジムグループの取組みが伝えられるよう留意し、編集いたしました。

報告書の発行は、社内外のステークホルダーに対して企業の活動を紹介すると同時に、取組みや目標を宣言することでもあります。より一層、企業の社会的責任と存在価値をグループ全体が共有し、意識しながら職務を行うことで、長年培った当社の良きDNAを向上させながら強固なものにしていく所存です。

変化し、多様化する価値観の中で常に評価される企業を目指すにはこれで終わりはありません。様々なステークホルダーとのコミュニケーションを通して進化し続けることができるよう、今後も活動してまいります。

執行役員・経営企画室長
CSR委員会推進委員長
萩田 直道

キングジム本社

つくば工場